

2017年度(平成29年度)事業報告(案)

運営に関する事項

(1) 理事会・評議員会の開催

- 第1回評議員会 5/2 定款第29条(決議の省略)による評議員会を開催
- 第1回理事会 6/6 中京青少年活動センター
- 第1回評議員会 6/23 ウイングス京都
- 第2回理事会 7/4 定款第29条(決議の省略)による理事会を開催
- 第3回理事会 11/20 ウイングス京都
- 第4回理事会 3/23 中京青少年活動センター

(2) 人事交流

(公財)京都市国際交流協会と6年目の人事交流となるが、諸事情により1年間出向を休止した。

(3) KES認証の継続

2008(平成20)年5月に受けたKES(ステップ1)の認証を継続(確認審査合格)し、環境負荷の軽減を意識した法人・施設運営に努めた。

- 事業計画にKES活動を取り入れ、成果を上げ、今後も青少年育成という事業活動を通して、環境保全、改善活動を推進して評価をいただいた。引き続き、外部への情報発信市民に向けた啓発に力を入れて取り組んでいる。
- 「祇園祭ごみゼロ大作戦」に協力し、協会職員、利用者にも呼びかけて多くのボランティアスタッフ、当日の運営に協力した。

(4) ディーセントワークへの取り組み

引き続き、協会の就業環境の改善及び就業意欲の向上について、【働きがいのある人間らしい仕事】をめざした職場風土づくりについて所属長会において議論を行った。

I. 協会(本体)事業

京都市からの補助金及び協会自主財源を原資として以下のように実施した。

1. ネットワーク形成事業

若者の成長を支援する様々な団体や機関の活動が、有機的につながることを目的として下記に取り組んだ。

(1) 若者に関わる機関・団体・人のネットワーク形成と連携を拡げる事業

① 若者に関わる団体の交流・情報交換の場づくり (京都市補助事業)

- 若者に関わる団体若手職員向けの合同研修会を実施した。(3月5日)
- 活動報告・団体交流会を実施した。(3月17日)

② 外部機関・団体と構成する実行組織への参画(自主事業)

- NPOセンター・ユースビジョンと協働して「学生Place+」を運営した。
- 健康長寿のまち・京都市民会議に委員として参画した。
- 京都はぐくみネットワークに参画した(幹事/各区実行委への参加)。
- チャイルドライン(こども電話)に協力した(共催・理事派遣)。
- 「AIDS文化フォーラム in 京都」運営委員会に参加した。
- 京のアジェンダフォーラム(会員)
- 京都府レクリエーション協会(団体加盟/評議員派遣)

③ 青少年育成・支援団体との事業共催・後援 (京都市補助事業含む)

- 育成団体・外部機関・関係団体からの希望に応じて名義共催、協力を行った。

<共催事業>

事業名	主催
ユースソーシャルワークみやぎ フォーラム	ユースソーシャルワークみやぎ
ユースワーカー養成講習会@石巻	NPO法人 TEDIC
ユースワーカー養成講習会@名古屋	名古屋市青少年交流プラザ
声優養成講座	特定非営利活動法人キンダーフィルムフェスト・きょうと
チャイルドライン京都 事業	チャイルドライン京都
チャイルドライン京都 ボランティア養成講座	チャイルドライン京都
祇園祭ごみゼロ大作戦	祇園祭ごみゼロ大作戦実行委員会
第2回シチズンシップ教育推進人材養成講座	日本シチズンシップ教育フォーラム(J-CEF)
「子どもの叱り方教室～子どもの勉強や遊びをサポートするあなたへ～」	NPO法人日本教育再興連盟(ROJE)関西学生事務局
「2017 presents たたかうLGBT&アート第3弾」	Café LGBT+
♪あんだんて♪14周年記念不登校経験者シンポジウム「経験者と親に聞く 不登校とは？」	親子支援ネットワーク♪あんだんて♪
「不登校・ひきこもりを考える京都フォーラム」	認定フリースクール 学びの森
京都自死・自殺相談センター主催研修	特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター
学習教室「縁-enishi-」	学習支援団体Apolon
社会貢献教育ファシリテーター研修	認定NPO法人日本フェンドレイジング協会

<後援事業>

事業名	主催
華～puspa～結成15周年記念公演-nowhere-	華～puspa～
カーラ・ヘンダーソン京都講演会	カーラ・ヘンダーソン京都講演会実行委員会
第7回AIDS文化フォーラム京都	AIDS文化フォーラム実行委員会
第2回若草プロジェクトシンポジウム	一般社団法人若草プロジェクト
京都やんちゃフェスタ2017	京都市, 市児童館学童連盟, 京都はぐくみネットワーク
チャリティーコンサート「キッサコ(あなたへの伝言)」	京都YWCA

- 「外部連携の推進」についてチーフ会タスク「連携・協働タスク」で検討を進めた。

*「今後の連携のあり方 2.0」「リエゾンオフィスとは」が提出された。

④ 関係行政機関・関係団体への協力(協力事業)

協会のもっている“資源”をもって、外部機関・団体との連携・協力を行った。それによる対価は事業収入として確保した。

○行政機関，他団体に委員等を派遣した。（市関連／市教委関連／他公益団体関連）（主なもの）

- * 京都市社会福祉協議会(評議員)
- * 京都市青少年活動推進協議会(委員)
- * 京都市児童生徒登校支援連携協議会
- * 京都市多文化施策審議会(委員)
- * 京都市HIV感染症対策有識者会議(委員)
- * 京都市子どもを共に育む市民憲章推進委員会(委員)
- * 京都市児童館学童連盟(理事)
- * 京都府レクリエーション協会(評議員)
- * 社会福祉法人西陣会(評議員)
- * エフエム京都放送番組組審議会(委員)
- * 京都YMCA(評議員)
- * 京都市国際交流協会(評議員)
- * 犯罪被害者支援連絡協議会

○外部機関・施設などからの依頼に応じて、企画提供や講師派遣などの協力を行った。（主なもの）

香川県教育委員会 講師派遣 (5/1)
京都教育大学 社会教育論 学外研修(5/19)
大谷大学 生活扶助論 ゲスト講師・グループファシリテーター派遣 (5/20)
滋賀県立大学 生涯学習論 講師派遣 (5/22)
京都橘大学 授業講師派遣 (5/26)
龍谷大学「現代社会の市民性を学ぶ」講師派遣 (6/12)
京都産業大学 ボランティア概論 ゲスト講師派遣 (6/26)
花園大学 ボランティア概論 ゲスト講師派遣 (6/26)
佛教大学「若者ケア論」講師派遣 (6/28)
日吉ヶ丘高等学校 事業紹介(7/20)
上京はぐくみネットワーク「子どもの貧困」に関するゲストスピーチ (7/25)
奈良教育大学「キャリア形成と人権」授業ゲスト講師 (7/25)
京都市立桃山中学校リーダー研修講師派遣 (8/2)
市立学校教員選考試験 民間面接員 (8/19・20)
若者と家族のライフプランを考える会 講師派遣 (8/24)
NPO法人TEDIC フォーラム講師派遣・チームビルディングファシリテーション (9/16)
尼崎市 ユースワーク概論 講師派遣 (10/7)
NPO法人スマイルひろば ユースワークの価値を捉えるワークショップ 講師派遣(10/20)
南区役所保健福祉センター ケースワーカー対象人権研修 講師派遣(10/20・21)
京都産業大学キャリア教育研究センター ゲストスピーチ(11/8)
豊中市子ども・若者支援フォーラム ゲスト派遣(11/14)
日生学園青山高等学校 京都保護者会 講師派遣(11/20)
中京区民生委員研修 講師派遣(11/21)
健康長寿のまち・京都いきいきフェスタ ステージ企画運営と利用グループの発表(11/25)
左京区社会福祉協議会 大会パネリスト派遣(11/30)
同志社女子大学宗教部ボランティア活動支援センター 講師派遣(12/6)
大津市就労支援ネットワーク滋賀 講師派遣 (12/14)
NPO法人らくさいライフスタイル 子ども食堂に関する研修講師派遣(12/20)
七条中学校 キャリア形成 講師派遣(1/18)
保健福祉センター連絡会議 取り組み紹介 (2/9)
日本フェンドレイジング協会 シンポジウム発表・コーディネーター(3/17)
京丹波町社会福祉協議会 学習支援事業の紹介 講師派遣(3/27)
京都カラスマ大学 ブース出展・講師派遣(3/31)

○少年非行の減少や軽減につながる取組での連携

- * スクールサポーターの活動に協力する(センターを使った少年との面談及び学習指導※北・中京・山科)とともに、非行少年の立ち直り支援活動(北:地域清掃)の場を提供した。

⑤ 4団体協議（京都市補助事業）

○ユースワーク団体の全国基盤強化に向けた取り組み(4団体協議)

* 横浜・札幌・神戸の青少年育成を担う財団／NPOとの調査結果を基にして、職員の専門性や養成・研修のあり方について検討するとともに、価値の整理、YW協議会設立にむけて協議を行った。

(2) 若者に関わる情報の受発信事業

若者や若者支援にかかわる団体・市民を対象として、その取り組みや関わる人・団体について情報の受発信に取り組んだ。

○ ボランティア情報の発信

- * 大学のボランティアガイダンスにブース出展し協会内外の活動機会を紹介した。
- * 各センター及び協会事務局においてボランティア説明会を実施した。
- * ユースアクションプラン認証事業と連動させWEBでボランティア情報を発信した。

○ 広報誌「ユースサービス」の発行。(京都市補助事業)

想定する読者は18歳以上の人。各事業所と連携した企画・取材を取り入れて記事内容の充実を図った。

第28号～第30号を発行(4,000部※30号のみ5,000部)し、関係団体や個人、学校、大学他公共施設・機関に配布した。

- * 第28号／9月号 特集「若者×ハコ」 * 第29号／1月号 特集「若者×創り出す」
- * 第30号／4月号 特集「若者×30」

2. 市民参加促進事業

青少年が「市民社会」の主体となる“市民”としての経験・学習の機会提供を目指す事業。シチズンシップ事業の開発、仕組みづくりに取り組んだ。

(1) 若者の青少年活動センター運営参画

- センターの運営協力会(育成委員会)に若者メンバーの参加を進めた。若者委員をキーとした、広範な若者の意見集約・表明の取り組みとしての「部会」を中京センターにおいて設置、運営した。
- センター運営・事業企画に若者の参画を進めた。

(2) シチズンシップ教育につながる事業の実施(京都市補助事業)

- 協会独自のシチズンシップ教育事業の開発・実施
 - * 若者が市政や社会に声を上げていける機会や環境を整備するために、京都版のユースカウンシル設立に向けて『ユースカウンシル勉強会』(12/4)、『ユースカウンシル準備会』(3/5)を行った。
- 社会貢献教育事業
 - * 日本ファンドレイジング協会、京都地域創造基金との協働事業開発。
高校での正課授業として、“社会貢献”を切り口に、地域の多様な実践団体と高校生が出会い、課題解決について考える連続講座を実施した。(京都すばる高校、嵯峨野高校)

3. 担い手育成事業

ユースワーカーの資格化をすすめ、ユースサービスの同業者間連携と、社会的認知が拡がることを目指した。

(1) ユースワーカー養成(資格認定)事業

- 年に2回の基礎講習会後の資格取得コースを実施した(参加7人)。
- 他地域(石巻・名古屋・横浜)で講習会を実施(YW4団体の協力で実施)した。
- 資格制度を整備し、継続研修の仕組みをつくった(本格運用は次年度に)。

(2) インターン受入れ／ボランティア育成・研修事業

① 実習生／インターンシップ受入れ・指導事業

- 大学コンソーシアムからのインターン生の受入れ(パブリック:中京センター3人,下京センター1人,南センター1人,伏見センター1人)。
- 京都女子大学社会教育実習受入れ(基礎実習:東山センター1人,社会教育実習:山科センター1人,東山センター2人,中京センター1人,南センター1人)。
- 京都女子大学インターンシップ生受け入れ(山科センター1人,伏見センター1人)。
- 立命館大学シチズンシップ・スタディーズ(北センター7人,下京センター4人)。
- 立命館大学全学インターンシップ生受入れ(北センター3人,山科センター1人,中京センター7人,東山センター3人,南センター4人,伏見センター2人)。
- 京都橘大学夏季インターンシップ生受入れ(山科センター3人,下京センター1人)。
- 京都府立大学公共政策実習の受入れ(0人)。

- ☆協会独自のインターン制度を試行(「有償」インターン1人を東山センターで受入れ)
- 京都産業大学「ボランティア実習」の受入れ(北センター8人・伏見センター3人)
- 学生ボランティアチャレンジの受け入れ(前期30人※北センター19人, 山科センター8人, 東山センター1人, 下京センター1人, 学習会1人, 後期12人※北センター11人, 山科センター4人, 中京センター1人, 伏見センター1人, 学習会2人, ユースシンポジウム4人)

②ボランティア研修会の実施

- 中3学習会ボランティアの全体研修・交流を実施した。(11/27, 3/13)
- セクシュアルヘルスマニ講座として, 学習支援ボランティアを対象に実施。(3/13)
- 各センターでの交流会・研修会

4. 調査・研究事業

新たな事業展開の機会をつかみ, 社会的要請を先取りするため幅広い調査・研究活動を行った。

(1) 立命館大学との共同研究 (京都市補助事業)

①ユースワーカー養成に関する立命館大学との共同研究

- アカデミックベース強化, 資格制度作りに向けた研究協議を継続して行った。(定例研究会4回実施)

*共同研究メンバー

(立命側)野田正人氏・荒木寿友氏・小西浩嗣氏・中村 正氏・齊藤真緒氏 (協会側)水野・横江・竹田

- 「若者学研究会」を立ち上げ8回の研究会を開催した。立命大の学生・院生を中心として10人程度で実施。
- ユースワーカー養成の在り方の検討

*外部研究者の研究チーム(以下)に参画しワーカー養成の在り方についての研究を進めた。

②ユースワーカー養成プログラムの実施に関する立命館大学との共同研究

- 大学院(応用人間科学研究科)でワーカー養成コースを共同運営した。
(概論) 5人受講/(演習・実習) 3人受講 東山・南・山科センターで3~5ヶ月の実習を行った。
- 大学コンソーシアム京都連携科目「ユースサービス概論」を開講(立命館大学と共同)した。

(2) 外部機関・団体・研究者等との共同研究(京都市補助事業)

- 「若者援助・政策とSocial Pedagogy研究会」(法政大学・平塚科研費研究)に継続参加。
*引き続き4年間科研研究に参加することとなり, ヨーロッパ研修に参加した。
- 子ども若者支援専門職員養成研究への協力
*奈良教育大の生田教授を代表とし社会教育研究者による研究会に参画(研究協力者)した。「子ども若者支援士(仮称)」養成に向けた調査・検討に参画した。

(3) テーマを定めた調査研究の実施と成果発信

- 若者調査の中間報告を社会教育学会にて報告した。
- 若者調査報告書「若者の成長におけるユースワークの価値」を発行した。

5. 事業開発

新たな事業展開の機会をつかみ, 社会的要請を先取りするため幅広い調査・研究活動を行った。

(1) 企画委員会と協働した社会ニーズ・課題把握とそれに取り組む事業開発

- 協会の新たな事業課題への取り組みの在り方について, 以下の3つのタスクグループ(2年任期)を作り, 現場ワーカーも含めて検討した。

①若者と家族 ②若者とSNS ③若者のシチズンシップ形成

<委員会の開催>

月 日	内 容	検討事項・作業詳細
5/19	委員会	理事会報告事項の協議 (6/6理事会にて報告) 新規タスク立上げ
7/20	委員会	
年間	タスクチーム	ミーティング及びリサーチをタスク毎に進めた。

<企画委員一覧>

斎藤 真緒	立命館大学産業社会学部教授	幸重 忠孝	幸重社会福祉士事務所代表
川中 大輔	シチズンシップ共育企画代表	山本 卓司	京都市教委生涯学習部首席社会教育主事
石山 裕菜	同志社大学院生(博士課程)	岡部 茜	大谷大学講師

(2) 企画委員会の検討や調査研究の成果の具体事業化

- セクシュアルヘルス事業
セクシュアルヘルス事業担当を各事業所に設置し、横断的な取り組みを行った。
 - ・京都市エイズデー、中高、大学への予防啓発リーフレットの配布、
 - ・恋愛カフェほか、横断事業の実施、ユースサービス概論にて授業担当
- 若者と食
報告冊子を用いた職員研修の実施。
- ヤングケアラーをめぐる事業開発パイロット事業
 - *プロジェクト会議:協会理事を发起人とし、研究者及び当事者参画型のプロジェクトチームを編成した。(計7回実施)
 - *家族のケアを担う子ども・若者ケアラーをテーマにした事例検討会の実施(計4回実施)
当事者や研究者からの事例報告をうけて、検討する場を設けた。
 - ・きょうだい会からの報告
 - ・高校生への実態調査分析報告
 - ・祖父母の介護経験検討会の場を通じて当事者同士がつながり、集いの場が生まれた。
- ☆センターの無いエリアでの「地域におけるユースサービス」
洛西地域におけるフリースペース運営についてNPO法人らくさいライフスタイルとの協同で試行した。
9月～3月毎週土曜日 16～18時 トライアル企画3回(アイスづくり・空気砲・たこ焼きパーティー)
向島地域＝伏見センターに記載

(3) 戦略的な広報の取り組み(広報室の運営)

- 広報室を核として、協会及びユースサービスの「ファンを増やす」取り組みを進めた。
 - 若者向け広報:学校訪問/不動産連携によるポスティング/HPの充実
 - 一般・支援者向け広報:SNS広告の実施/プレスリリースの発行
 - 職員向け:広報研修の実施
- 広報の全体調整
広報データの更新・管理/協会広報物の全体調整/事前・事後告知(プレスリリース)
YAP認証事業やイベントガイドの活用/利用促進に関わる取り組みの企画実施

(4) 寄付・協賛獲得のための取り組み

- 賛助会員制度の構築をすすめ、規程の整備を行った。

(5) 事業評価の実施

- 事業評価のサイクル(目標設定→評価→枠組みの再構成と計画への反映)を業務の中に位置づけた。
- 「外部評価者」の参画を得て評価会議を行い、事業所間・ワーカー間の相互評価とともに外部の視点を事業の捉え方に反映された。

(6) ☆30周年記念事業企画の検討

- プロジェクトを立ち上げ、財団設立から30年を迎えるタイミングで、記念事業を検討した。
2018年度の本格実施にむけてロゴを作成した。

(7) その他のプロジェクトによる取り組み

- 「若者政策条例」策定に向けた市との協議、検討は一旦休止となった。

6. ディーセントな組織づくり

職員が働きやすい組織づくりを行うとともに、市民活動団体としての一つのモデルとなることを目指した。

(1) スーパーバイズ・コンサルテーションの実施

○年間を通して、外部スーパーバイザーを委嘱し、全事業所でコンサルテーションが受けられる体制を作った。

(2) 研修室による職員研修の組織的・計画的運営

○年間研修計画の設定とそれに基づいた研修を実施した。

新採職員研修(①職員・ワーカーとしての基礎 ②現場での実践記録を作成しSVを受ける)

若手職員研修(ワーカーとしての基盤となるスキルについて自らがテーマ設定し学ぶ研修を実施)

外部派遣研修(多様な外部研修機会に職員を派遣した)

チーフ・管理職向けのハラスメント研修の実施(5/11)

○全職員が参加する「全体研修会」を実施した。(6/7)

(3) ディーセントワークにかかる取り組みの実施

○メンター制度の検討と実施準備を行った(30年度から実施)。

○☆「ストレスチェック」の導入。

○☆ハラスメント等、職員相談窓口を設置した

7. 環境負荷の少ない団体・施設運営(KES認証の維持)

KES認証を生かした施設運営を行うとともに、若者や地域への啓発的活動を進めた。

○節電、節水、紙の節減など、職員への徹底と利用者への呼びかけ

○環境改善目標の実現

環境意識の充実と外部発信(毎月1回以上)／センター周辺の清掃(毎月1回)

環境啓発事業の実施(年間で6回)

○ごみゼロ大作戦への協力

8. NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業の実施

NPO等民間団体の支援事業(以下6団体)に対して、助成を通じ支援活動を促進するとともに、指定支援機関とNPO等民間団体、NPO等民間団体相互の連携・協力の機会を設定した。

○6団体の事業について採択、助成。

京都ARU／京都教育サポートセンター／恒河沙母親の会／エイドネット cafe／若者と家族のライフプランを考える会／京都老人福祉協会 就労継続支援A型 ワークパートナー YUI

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者／のべ数	備考／実施場所等
シチズンシップ／ユースカウンスル勉強会	12/4	1	23名	
ユースカウンスル準備会	3/5	1	9名	青少年のみ
ネットワーク形成事業／合同研修	1/29(日)	1	6団体, 9名	
活動報告・団体交流会	2/18(土)	1	25団体, 34名	
(共催)ユースワーカー養成講習会@石巻	10/28・29	1	20名	石巻
(共催)ユースワーカー養成講習会@名古屋	11/18・19	1	18名	名古屋
4団体協議／ユースワークの価値整理WS	11/6	1	10団体, 21名	横浜
4団体協議／神戸会議	1/31	1	2団体, 11名	神戸
事業評価ヒアリング	1/7	1	外部10名	
(学習支援)ボランティア研修	11/26	1	Co.+Vo.32名	
(学習支援)ボランティア説明会	11/26	1	4名	
(学習支援)ボランティア交流会	3/13	1	Vo. 14名	
セクシュアルヘルスマニ講座	3/13	1	Vo. 14名	
子ども・若者ケアラープロジェクト会議	4～3月	7	32名	研究者, 当事者他
子ども・若者ケアラー事例検討会	8～2月	4	150名	キャンパスプラザ他
アウトリーチ(洛西)	9～3月	27	53人 Vo.22名	洛西センタービル

Vo. =ボランティア

Ⅱ. 子ども・若者支援事業及びその他受託事業

1. 京都若者サポートステーション受託事業（厚生労働省及び京都市委託）

無業状態の15歳から39歳までの若者（学生除く）に対し、職業的自立に向けた支援を行う同事業を厚生労働省及び京都市より委託を受け、運営した。全国的に有効求人倍率の上昇、完全失業率の減少という状況のため、サポステ利用は全国的に減少しており、京都においても同様に新規登録者数・就職者数が減少している。

(1) 個別相談支援事業

① インテーク面談・個別支援

○ユースワーカーがインテーク面談を実施。特に、緊張感が高い利用者に対して関係づくりをしながら思いを整理し、事業との繋ぎの面談や専門相談を補完する形で個別相談など、間を繋ぐための支援に取り組んだ。

② 専門相談

○専門相談員である臨床心理士によるこころの相談（水・木・金曜）、キャリアコンサルタントによるキャリアの相談（火・金・土曜）。

③ 定着・ステップアップ支援事業

○就職者数減少の影響があるものの相談件数は若干の減少に留まった。就労決定後の様子伺いや継続的なかかわりと、途切れない支援を行った。

(2) 就活基礎力

① 身体表現を用いたコミュニケーションワーク

○演劇から学ぶ、働くためのコミュニケーションワーク（東山）では、インプロビゼーション（即興演劇）の手法を用いて、表現することを体験的に学ぶワークを実施。また、新たに東山のインプロビゼーション（即興演劇）と同様に、じぶんみがきダンス（東山）を即興でのダンスの手法を用いて、表現することを体験的に学ぶプログラムを実施。

② キャリコロ（キャリコロ／アドバンス／女子会／その他）

○サイコロの出た目に合わせた話をし、徐々に少人数から全体に繋げ、会話力アップを目指すプログラムを実施。アドバンスでは、キャリコロのような題目設定をせずに、全体で話す体験をする。また、参加者の意見を取り入れ、女性限定の「女子会」や職業体験参加者の体験談を聞く「座談会」、枠を極力設けない中での過ごし方を体感する「フリー」など、さまざまな形式で実施。その他に月1回の発送作業において、役割分担し作業する体験を通して、協働で働くことを体験的に理解し、実践できるための事業、チートレ（チームワークトレーニング）を実施した。

③ イマココ

○マインドフルネスの手法を用いて、今ここの自分自身の状態を客観視しつつ、心身のリラックスを体感し、緊張緩和するプログラムを実施。

(3) 就活実践力

① 自分を知って仕事に就こう

○過去の経験や現在の自己イメージを明確にし、将来ビジョンを作成し、実行可能なキャリアプランを作成する講座を実施。

② デンワをかけよう・うけよう

○電話応対に自信がなく、一步を踏み出せない利用者の後押しのために電話応対・ビジネスマナーの講座を2種類実施。

③ 面接対策講座（カタチを学ぶ／面接直前／履歴書等）

○模擬面接の様子を映像で振り返る作業を通して、面接の所作を学ぶ講座。面接で想定される質問に対する回答を考え、実践する講座。履歴書の書き方について、特に志望動機・自己PRを作成する際のポイントを学ぶ3つの講座を実施。

(4) 職場体験事業

① アジプロ（喫茶体験／事務体験）／農業体験／ゆず加工体験

○青少年活動センター内での就労体験プログラム（南＝喫茶、山科＝事務）を実施。丁寧に体験を振り返るプロセスを踏むようにしている。また、水尾地域では特産のゆずの加工に携わる5日間の就労体験を実施。北センターとの中間的就労「野菜づくりから仕事に近づく」では、一連の農作業（畝づくりから収穫、販売まで）を体験する4か月間のプログラムを実施。

② 職場体験事業（宿泊施設／介護施設／コンビニ／青少年活動センター等）

○コンビニエンスストア、青少年活動センターでの体験を実施。受入先として、伝統工芸の製造、工場での製造、喫茶での製造・販売など新規開拓ができたが、実際の体験には至っていない。

(5) 保護者支援事業

① 保護者相談／親こころ塾

○無業状態の我が子との関わり方について悩む保護者が、捉え方・かかわり方を学ぶプログラムや月2～4回の保護者相談を実施。

(6) サポステ周知事業

① 広報事業

○従来のパンフレット・チラシ送付，HP／サポステネットでの広報を実施。単身者マンションへのポスティングなど試験的な取り組みも実施。その他，各種ネットワークでのサポステ紹介依頼が多く，ネットワークを通しての広報も精力的に取り組んだ。

② 地域出前相談会

○ハローワーク京都七条での出張相談を毎月実施。京都産業大学との連携による出前相談を平成29年度は卒業式に併せて2日間実施。卒業後進路未決定者が参加した。また，通信制高校にて出張相談も実施した。

(7) 機関連携事業

① 内部連携

○サポステの危機的な状況を発信し対策として提案をいただいた。今後も協会としてセンター／子若／サポステと連動した広報の取り組みの必要性が求められる。

② 学校連携(大学・高校)

○前述しているが，京都産業大学，通信制高校での出前相談会を実施。進路未決定で卒業予定の生徒や中退者への支援のため，市内4校(1校は青少年活動センターより訪問)に訪問，通信制高校は7校を訪問した。

③ 他機関連携(就労・福祉・医療機関／企業／ネットワーク)

○就労移行支援事業所ネットワークでのサポステ紹介や各福祉機関と個別に連携を前提とした相互の取り組み理解のための協議に取り組んだ。新たに中小企業家同友会・各支援機関との連携による，ネットワークに参加。サポステ対象層と中小企業とのマッチングから企業での実習に繋がった。

(8) ☆常設サテライトの運営

① 南丹地域常設サテライトの運営

○個別相談支援／就活基礎力／サポステ周知／機関連携，出張相談等の事業を実施。また，ネットワークに積極的に参加し，情報共有の機会を有効に活用する他，具体的な連携を模索した。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者・のべ数	備考／実施場所等
アジプロ(喫茶体験)	7～8月／10～11月 2～3月	21回	77名	南センター
アジプロ(事務体験)	10月	6回	18名	山科センター
農業体験(野菜づくりから仕事に近づく)	4月～8月	57回	343名	北センター 他
柚子しばり体験	11～12月	6回	12名	水尾地域
イマココ	4～3月	12回	86名	月1回実施
キャリコロ(アドバンス／女子会／就労体験談／フリー含む)	4～3月	30回	191名	
自分を知ってしごとにつこう／じぶんみがきダンス	5～6月／9～10月 10～11月／2～3月	20回	102名	東山センター／伏見センター
自分を知って仕事に就こう	8～9月	3回	25名	
面接対策講座／履歴書講座／直前講座	4～3月	30回	55名	
デンワをかけよう／受けよう	4～3月	16回	39名	
チートレ	4～3月	13回	63名	
親こころ塾	9月／2～3月	6回	76名	

2. 子ども・若者総合支援事業(指定支援機関受託業務)

子ども・若者支援地域協議会において、支援の主導的役割を担う指定支援機関として、関係機関と連携のもと社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者の社会的自立に向けた総合的な支援に取り組んだ。また、中京青少年活動センターの子ども・若者総合相談窓口と子ども・若者支援室の機能を以て、ひきこもり地域支援センターとして位置づけられている。

(1) 個別ケース支援(支援対象者等に対する相談、助言、指導及び支援の進行管理)

総合相談窓口や関係機関からリファーされた支援地域協議会による支援を必要とする対象者に対して、支援コーディネーターが相談、助言、支援のコーディネート及び進行管理等を実施。対象者の状況に応じて、住居やその近隣の施設などへのアウトリーチの方法も用いて支援を行った。

- 支援ケースは102ケース(前年度からの継続:74ケース, 新規:28ケース)。昨年度から新規が増加。総数は昨年度と同数だが、対応回数は増加。
- 年度内に、支援を始めて6ヶ月経過した25ケース中、14ケースが状態の変化が見られる。状態変化の割合は40.0%から56.0%に増加(対象ケースの内、支援開始時、本人が支援に繋がるケースが4.5割→6割に増加)。
- 支援ケースの約7割がひきこもり区分であり、増加傾向。本人に出会えない状態から始まるケースが半数。
- 本人支援のためのアウトリーチは、40ケース155回(うち家庭訪問は7ケース40回)実施。ケース数、回数ともに増加

(2) 支援地域協議会との連携

必要に応じて、個別ケース検討会議を実施するほか、地域協議会に設置された課題別検討部会(ひきこもり支援チーム)における検討等を通して、構成機関と連携しながら、支援を行った。

- 個別ケース検討会議を54ケース、延べ458回実施(前年度は61ケース、延べ332回)。ケース数は減少したが、実施回数が増加。
- 代表者・実務者会議(2回)とともに、課題別検討部会を3回実施。ケースに基づく課題の検討を実施。

(3) NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業の実施 及び 関係機関・団体との連携

NPO等民間団体の支援事業に対して、助成を通じ支援活動を促進するとともに、指定支援機関とNPO等民間団体、NPO等民間団体相互の連携・協力の機会を設定した。

- 6団体の事業について採択、助成。(再掲)
京都ARU/京都教育サポートセンター/恒河沙母親の会/エイドネット cafe/若者と家族のライフプランを考える会/京都老人福祉協会 就労継続支援A型 ワークパートナー YUI
- 「講演会+NPO活動紹介・交流会」(タイトル:「ひきこもる若者にできること ~周囲の変化から本人の変化へ~」, 講師:坂本 真佐哉氏)を実施(2017年12月3日)。定員170名を上回る182名が参加。
交流会には助成団体のうち6団体に加え、京都市社会福祉協議会が出席。講演会、交流会とも非常に好評であった。

(4) 協会内部資源の活用・連携

子ども・若者総合相談リンク機関として位置づけられている「若者サポートステーション」、「青少年活動センター」と、総合相談窓口・支援室とが密接に連携し、子ども・若者の総合的な支援に努めている。

- 総合相談窓口、支援室それぞれのスーパーバイズをオープン化。各センター、サポステから職員が出席し、連携を図った。
- 若者サポートステーション、青少年活動センターからの紹介による子ども・若者、家族、機関の相談:24件
- 青少年活動センター、若者サポートステーションのユースワーカーからの相談:29件
- 相談窓口における、若者サポートステーション・青少年活動センターへの紹介:173件
- 支援ケースにおける、青少年活動センター・若者サポートステーションとの連携数:26ケース、延150回

(5) ピアサポーター養成・派遣事業

昨年度に引き続き、支援コーディネーターとともに、対象となる子ども・若者の社会的自立に向けた支援に協力する「ピアサポーター」の養成派遣を実施した。

- ひきこもり支援専門委員会において、他機関・団体とともに現状についての情報共有、ピアサポーターの派遣について検討した。
- ピアサポーターミーティングを月1回継続。活動の振り返りや検討、ニーズに応えた形での研修を行った。
- ミニグループ活動(モノタメ:ものは試しの略)を月1回実施。
- ピアサポーターの派遣は13ケース、延べ43回(回数が減少)

(6) 子ども・若者総合支援機能の発信

視察対応、外部での講演等の機会を通じて、子ども・若者総合支援とユースサービス協会全体の機能について広く発信に努めた。

○子ども・若者総合支援に関する視察・調査対応:7件(前年度:11件)

○外部発表・出展:29件(前年度:14件)

(7)京都市ユースアクションプラン認証事業

青少年育成団体やNPO団体などが実施する、子どもから大人へと成長する青少年を支援する取組に対して、「京都市ユースアクションプラン」の主旨に基づくものを京都市が認証し、情報の集約・発信を通じた活動の促進、青少年への情報提供を行った。

○ユースアクションプランの趣旨に合致する取り組みの事業申請募集を行った(認証事業134件)。

○ユースアクションイベントガイド夏休み号(30,000部、約350か所に配布)と、ボランティア特集号(10,000部、500か所に配布)を発行した。

○WEB版のユースアクションプランイベントガイドを毎月更新し発信した。

(8)総合相談窓口事業(青少年活動センター指定管理業務)

「子ども・若者育成支援推進法」に規定されるワンストップ窓口として、「子ども・若者総合相談窓口」を中京青少年活動センター内に設置しており、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者やその家族からの相談に対応した。また、平成25年度より、「ひきこもり地域支援センター」の相談窓口としても対応している。

○新規相談は、488件。前年度(441件)より増加。

○上記新規相談のうち、本人からの相談は149件(30.5%)であった。相談内容は「ひきこもり」が34.8%と最も多く、その他にも多様な相談を受けている。就労以外の進路(日常の居場所、活動場所等)が増加。

○年代別では、10代が25.4%(前年度:26.8%)、20代が43.8%(前年度:46.5%)、30代が21.7%(前年度:19.0%)であった。

3. 中学生学習支援受託事業（京都市子ども若者はぐくみ局子ども家庭支援課）

経済的な要因等で、家庭での学習環境が整いにくい、進学を目指す中学生を対象として、学習支援を行う。2017年度は全区での実施と、ニーズの高いエリアでの増設を京都市所管課等と協力して進めた。大学生を中心とするボランティアが、1対1の形で勉強を教えて進学を支援するとともに、相談相手になることで中学生の成長を支える活動を行った。2017年度、右京エリアに1ヶ所増設、上京・向島に1ヶ所ずつ新設し、拠点数は17ヶ所となった。また、新規事業として夏休み学習会を実施した。

- 中学生（一部高校生を含む）の登録者は200人あまり。210人を超えるボランティアが協力した。
- 年間804回の学習会を開催し、学習者は延べ約3,200人、ボランティアは延べ約4,200人が参加した。
- 職員とコーディネーターを対象とした担当者会を実施し、事務の統一化、全体の成果と課題の把握、協議を行った。（7/4職員担当者会、3/3職員+Co.担当者会）
- ボランティア説明会と、登録ボランティアを対象とした全体または拠点別の研修会、交流会を実施し、安定的な運営体制づくりを図った。

<各地域での実施状況>

Co.=コーディネーター Vo. =ボランティア

実施場所	参加者 (登録者)	ボランティア 及びスタッフ	実施曜日	実施の枠組み
北青少年活動センター	17	10	毎週木曜日	BBS会の協力
伏見青少年活動センター	15	11	毎週木曜日	BBS会の協力→単独運営化
山科青少年活動センター	22	13	毎週金曜日	単独運営
南青少年活動センター	17	11	毎週木曜日	単独運営
洛西(コワーキングスペース)	21	12	毎週金曜日	下京センターがボランティアをコーディネート。Co:地域団体に依頼
中京青少年活動センター	22	23	毎週金曜日	学習支援団体Apolonの協力
小栗栖(こどものひろば事務所)	5	10	毎週火曜日	山科醍醐こどものひろばの協力
右京(山之内社会福祉会館) ※野菊荘の会場提供協力	22	13	毎週木曜日 毎週水曜日	花園大学社会福祉学部の協力 Co:花園大学教員 ※7月から実施
左京(左京区役所)	10	13	毎週金曜日	京都ノートルダム女子大学他の協力 Co:京都府立大学 院生
深草(龍谷大学町家キャンパス)	12	24	毎週木曜日	龍谷大学の協力 Co:龍谷大学 学生2名
西京(西京児童館)	11	13	毎週金曜日	京都市社会福祉協議会の協力 (会場借用)
東山青少年活動センター	12	29	毎週金曜日	地域団体と協力 Co:子どもの居場所「かもかも」
醍醐(カフェ「トトハウス」)	3	10	毎週木曜日	山科醍醐こどものひろばの協力
下京青少年活動センター	3	6	毎週月曜日	単独運営
上京(上京区役所)	4	4	毎週月曜日	単独運営 Co:同志社大学卒業生
右京南部(京都光華女子大学)	3	9	毎週木曜日	京都光華女子大学の協力 Co:立命館大学 院生
向島(城南保育園)	3	4	毎週土曜日	伏見区社会福祉協議会の協力 Co:ボランティア.経験の学生2名

* 青少年活動センターで実施する学習会の運営詳細については、各青少年活動センターにおいて記載。

* 中学生の受験が近づく秋以降、ニーズに対応して、いくつかの学習会で他の曜日にも実施した。

☆「夏休み学習会」の実施

中学生の長期休暇中の学習環境を整える目的で、2017年8月18日(金)～22日(火)の計5日間、13時～17時まで北青少年活動センターで実施。新規登録者の受け入れはもちろん、既存学習会の参加者も参加できる場として設定。

- 中学生2人・高校生1人(定員10人)の参加があった。
- 北・深草学習会や右京南部開設前研修として計16人のボランティアが協力した。
- * 最終日には食育指導員の協力により、手作りでおやつ作りを体験する機会を設けた。

4. ☆児童養護施設退所者等への支援の取り組み

児童養護施設退所者等支援事業(京都市委託事業)を受託実施した。(下半期からの実施)

(1)研修の実施に関すること

○協会職員向け研修と児童養護施設職員を対象とした事前研修を実施した。

(2)相談支援に関すること

○各青少年活動センターの相談機能の充実として、退所者からの相談を受理した。

(4件11回, お金, 恋愛, 職場適応, 暮らし) ※退所者であることがわかったケースのみカウント

○入所中の若者からの相談や施設からの相談を受理したり, ケース会議等施設との連携にも取り組んだ。

(相談受理2件7回: 学校生活全般, 生き方・行動・性格)

(3)交流会の運営及び実施に関すること

○南青少年活動センターにて, 参加者同士がともに食事をしながら仲間と語り, 安心して過ごせる場の運営を行った。(11月より月1回開催。)

○準備, 片付けもプログラムの一環として位置づけ, 包丁の使い方を始め, 調理について実践的に学べる場とした。

(4)関係機関との連絡調整に関すること

○事業運営にあたり必要な関係機関との調整, 関係づくりを行った。

* 市内児童養護施設(施設長会挨拶/各施設ヒアリング同行)

* アフターケアの会「メヌエット」(情報・経験共有他)

* アフターケア相談所「ゆずりは」(施設訪問)

* 佛教大学(相談・研修参加)

* 中小企業家同友会

* 和敬学園(文化祭への参加)

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者・対象等	備考/実施場所等
青少年活動センター視察会	8月24日	1	9名/児童養護施設職員対象	南青少年活動センター
法理解研修	9月5・18日	2	所属長・チーフ	講師:安保理事長
背景理解研修	9月11日・14日	2	協会全職員	講師:奥井係長
退所後支援研修	9月25日	1	協会全事業所	講師:伊部氏・長瀬氏(佛教大学)+つばさ園職員 調査結果の報告と施設での困り事, 工夫など。
児童養護施設視察研修	11月16日	1	協会全事業所	視察先:聖嬰会
交流事業「いこいーな」	11~3月 第3土曜日17~21時	5	31名 (退10,入10,職10)	南青少年活動センター

Ⅲ. 青少年活動センター受託事業

全体の動向

京都市が設置している7ヶ所の青少年活動センターを指定管理者として運営した(2015年度より4年間の指定期間)。京都市ユースアクションプランの主旨に沿いながら、指定管理仕様書に準拠しつつ事業運営を行った。各センター固有の事業テーマの実施と、共通の事業の柱を以って取り組み、2016年度に利用者数50万人を超えた実績を維持した。

1. 青少年活動センター協同事業の実施

7つの青少年活動センターが協同し、それぞれの資源や機能を活かしながら、若者が幅広い年代を対象として実施するプログラムを通して社会参加できる機会づくりを行った。

(1) 青少年交流促進・多世代交流事業(青少年と青少年に関わる多世代が交流できる場づくり)

①ユースシンポジウム2017(センター協同事業) ※中京に再掲

- 2017年12月17日(日) 13:00～17:00 場所:下京青少年活動センターにて開催。
- タイトル「あなたと考える、これからのオトナ 大人の条件ってなんですか」
- 分科会や当日運営に青少年の参画を得た。
- プレ企画＝若者に「私が思う大人の条件」を述べてもらう動画を撮影し、センターの Facebook 公式アカウントで公開した。

(2) ☆若者文化発信事業

①☆若者文化市(センター協同事業) ※東山に再掲

- 2018年2月25日(日) 11:00～16:00 場所:東山青少年活動センターにて開催。
次年度から実施する、若者文化発信事業の柱となる事業展開に向けたニーズ調査及び、青少年参画者の育成を目指して、センター連携による若者の文化的なイベントを実施した。

②☆ニーズ調査

- アンケート実施:3センターのイベント事業開催の際に「ユスカルチャレンジ」という空間を設け、若者がナビゲーターとしてテーブルゲームを通じた世代間交流を図った。また、ニーズ調査として行った若者文化に関するアンケートでは、300人から協力をいただき、若者の興味や関心をより知る機会となった。
- 来たれ！ユスカルチャレンジ！（多世代交流をテーマにした空間としてボードゲームの実施）
 - 11月18日 東山青少年活動センター「ワカモノ文化市」
 - 12月10日 伏見青少年活動センター「手づくり市」
 - 12月17日 北青少年活動センター「北コミまつり」

(3) 利用促進・グループ登録の全体調整

- 青少年グループ・育成団体登録について全体とりまとめの調整を行った。
 - * 青少年グループ登録＝130
 - * 育成団体登録＝119
- 音楽スタジオの利用促進を図り、高校生向けのフェス広告協賛をした。
- 一般利用の促進を図り、「会議室.com」への掲載、ホームページの検索ワードの見直しと修正を行った。

2. 各青少年活動センターでの事業展開

7つの青少年活動センターの特色を活かしたセンター固有テーマの実施と、共通の事業項目をもとに事業運営を行った。

1. センター固有テーマ
2. 居場所づくり支援事業
3. 地域交流・連携・参画に関わる事業
4. 担い手育成に関わる事業
5. 利用促進・広報・発信に関わる事業
6. 相談・支援の取組
7. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

Ⅲ－1. 北青少年活動センター

全体の動向

- 2016年度と比べて、青少年グループ利用は大きく減少したが、青少年個人や、事業参加者は増加した。施設稼働率は微増、利用者数は△772名減少。
- 北山三学区をはじめ、センター周辺の地域との関係が深まり、多様な自然体験・環境学習事業を提供することができた。
- ロビーに置くボードゲームやカードゲームを通して、自信を持って人と関わられるようになった青少年が増えてきた。一緒にゲームをすることで職員との関係が深まってきている。

1. 自然体験・環境学習事業(センター固有テーマ)

①里山体験プロジェクト

- 自然と暮らし・文化を感じるプログラム「大文字ナイトハイク」は、7月に法然院森のセンターには行ったものの、登山は豪雨のため中止。11月に「ナイトハイクリベンジ」を計画したが、雨の影響を受け中止。天候に左右されるプログラムであるが、ナビゲーターから四季を通して楽しめるものができるらしいねとの声をいただいた。
- 立命館大学のシチズンシップ・スタディーズと一緒に秋のプログラムを企画。12月には小野郷の野菜を使った豚汁を学祭で提供したり、地域清掃に参加した。

②こども自然・くらし体験クラブ

- 月2回のボランティアとミーティングを行い、北区周辺で子ども対象とした、自然体験プログラムを実施した。地域とのつながりを活かし、北山三学区(小野郷, 中川)でプログラムを実施することができた。また、ボランティアだけで企画をしたプログラムを実施し、自主性を養うきっかけを作ることができた。

③環境負荷の少ない施設運営と啓発

- KESの取り組みの一環として、紙屑の回収、節電・節水・ゴミの分別、「祇園祭ごみゼロ大作戦」への参加など、利用者に協力を呼びかけるとともに、ウェブサイトやFacebookでも発信した。

2. 居場所づくり支援事業

①ごぶSAT(ごぶさた)

- コミュニケーションが苦手など、何らかの課題を感じている青少年を対象に、料理やレクリエーションなどのプログラムを実施した。また定期的に個人面談を実施し、それぞれが感じる課題を本人と共有した。月3回実施とした。

②アフタヌーン亭(地域若者サポーターなどの協力を募って実施)

- 地域若者サポーターとセンター利用者とのしゃべり場事業。第1土曜日に開催している。参加人数は少ないが、ゆっくり話したい人たちが参加している。

③卓球フリータイム

- 9のつく日に実施。開催曜日に変化することで、多様な属性の青少年が参加し、ラリーを行うことができた。

3. 地域交流・連携・参画に関わる事業

①地域で始めるボランティア

- 地域の環境団体(日本環境保護国際交流会)と月1回、定期的に紫明通りの清掃活動を行った。
- 北区役所のふれあい事業である北区民春まつりに参加協力したり、地域のイベントのブース出展(FUN AOKA STANDARD, 新大宮夏祭り, 楽只まつり)にも参加した。今までは環境啓発を意識したブースが多かったが、インターン生の提案で、初めて参加する子どもたちも楽しめるゲーム性のあるものにも取り組んだ。

②サンタになろう!(サンタクロース・プロジェクト)

- クリスマスイブの夜に、青少年がサンタやトナカイに扮して、保護者から事前に預かったプレゼントとパフォーマンスを届けた。高校生も参加するなど、参加層の広がりはあったが、ボランティア人数はあまり伸びなかった。

③伝記作成プロジェクト

- 高齢者は集まったものの、ボランティアは集まらなかった。

④北コミまつり(センター利用団体、地域団体との協力事業)

- 参加者同士が交流できるお祭りを目指して、障がい者も含めた「地域」をキーワードに、企画を進めた。さらに、ボランティアや実行委員会の役割を明確にした結果、昨年度の2倍以上の参加者と出演者、出展者に今までにない交流が生まれ、まつりへの高い満足度を得た。

⑤つながるワークショップ(北区役所との連携事業)

○北区役所主催のまちづくり事業(ワークショップ)の企画・運営を、関係する機関と協働して行った。

⑥北区学生×地域応援団(北区社会福祉協議会、大学ボランティアセンターと連携)

○北区内の4大学(京産大、立命館大、佛教大、大谷大)と、北区社協、北区まちづくりアドバイザー、北青少年活動センターが協働し、「学生と地域とを結びつける場」のプラットフォームとして、「北区若者まちづくりサポーター養成講座」を大將軍学区で実施した。

⑦北区人づくりネットワーク(教育委員会との協力事業)

○1/24(水)ふれあいトーク@加茂川中学への協力を行った。

⑧運営協力会

○伝統産業、特に西陣地場産業の様子を知るために、運営協力会委員の協力のもと、仕事見学の機会を得た。

4. 担い手育成に関わる事業

①自主活動支援事業

○青少年による自主的な企画の提案はなかった。

②きたせいボランティアネットワーク「KITARA」

○北センターで活動するボランティアが横のつながりを増やすために、交流の場を設けた。今年度は、交流3回と活動報告の場をもち、12月には北コミまつりでKITARAブースを開催した。

5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

①自習室

○青少年が集中して勉強するために、登録制で自習室を開放した。登録時に施設や事業を紹介するなどワーカーとの会話が生まれ、これをきっかけに他の事業に参加するなどの流れが見られた。

②広報充実事業

○大学が主催するボランティア説明会や授業内で、センターの取り組みについて説明し、参加者の獲得やセンターの周知を図った(京産大、立命館大、佛教大、大谷大、京都女子大学)。

○近隣高校である、清明高校へ部屋利用などのチラシを全生徒へ配布した。近隣中学の加茂川中学校へもチラシを持参するなどにより、周知が図れた。

6. 相談・支援の取組

①相談事業

○件数は159件・242回と前年度(253件・452回)より大幅に下回った。

○情報提供を除く相談では、様々な困難を抱える若者の継続相談があり、それらに対する支援を模索するために、ワーカー同士で相談内容を共有する機会を設けた。

②ロビーにおける情報提供・相談事業

○「何でも質問・何でも相談コーナー」を設置し、情報提供と相談を合わせて161件が寄せられた。

③職業ふれあい事業「野菜作りから仕事に近づく」(京都若者サポートステーションとの連携事業)

○中間的就労の場として、野菜づくりの一連の流れ(畑づくりから種まき、水やり、収穫、販売まで)を体験し、自信をつけたり、生活リズムが整うなどの変化が見られた。

○少人数でのグループ体験を通して、お互いに励ましあったり、時には注意をする関係が構築できた。達成感や信頼感を得る機会となり、7名の参加者の内、4名が職場体験や求人応募につながった。

④北中3学習会(学習支援事業)

○生活保護世帯の中学生を対象に、高校受験に向けた学習会を立命館大学衣笠地区BBS会が主体的に運営できるように支援した。

7. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

①非行少年等立ち直り支援事業(京都府青少年課と連携)

○京都府の「立ち直り支援チーム(ユースアシスト)」に協力し、家庭裁判所に送致され係属中の少年を参加対象にして、地域若者サポーターとともに、月1回の地域清掃活動を行った。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者／のべ数	実施場所等
こども自然・暮らし体験クラブ ミーティング, 下見, ふりかえりなど	通年(月2~3回)	74	493	北センターほか
① どろんこ田植え体験in小野郷	5月14日	1	Vo. 11 こども18	北区小野郷
② ぼくらの自由研究in中川	7月16日	1	Vo. 13 こども17	北区中川
③ 秋の稲刈り体験in小野郷	9月9日	1	Vo. 8 こども17	北区小野郷
④ 草木染め体験in南青少年活動センター	12月9日	1	Vo. 14 こども7	南センター
ボランティア合宿in小野郷	8月26日~27日	2	ボランティア12	北区小野郷
協力依頼プログラム	10月15日, 1月14日	2	Vo. 9 こども・おとな30	嵐山-高雄パーク ウェイほか
里山体験プロジェクト				
① 大文字山ナイトハイク	7月8日	1	少年6 講師3	大文字山
② 大文字山ナイトハイクリベンジ	11月18日	1	雨天中止	大文字山
③ 小野郷収穫祭	11月26日	1	青少年2 Vo. 7	北区小野郷
地域で始めるボランティア				
ミーティング, 準備作業, ふりかえりなど	通年(月1~2回)	26	88	北センター
清掃活動	通年(第1土曜日)	10	Vo. 53 共催団体16	紫明通り
イベント参加・協力	随時	8	Vo. 53 来場者1, 348	北センター ・北センター周辺
アフタヌーン亭	通年(第1土曜日)	12	参加者117 市民Vo. 37	北センター
ごぶSAT				
ミーティング, 準備作業, ふりかえりなど	通年(月3回)	18	35	北センター
プログラム	通年(月3回)	36	401(参加者+Vo.)	北センターほか
KITARA	3カ月に1回程度	4	49	北センター
サンタクロース・プロジェクト				
ミーティング, 準備作業, ふりかえりなど	10月30日 ~12月23日	18	126	北センター
家庭訪問	12月24日	1	Vo. 10 訪問家庭13	北センター周辺
きたせいフリータイム	通年(月2~3回)	30	参加者209 市民ボランティア15	北センター
職業ふれあい 説明会, 研修, ふりかえりなど	4月20日 ~8月18日	10	55 (参加者+ボランティア)	北センターほか
職業ふれあい 農作業・販売	4月25日~ 8月12日(週3回)	46	349 (参加者+ボランティア)	作業:岩倉長谷町 販売:北区役所他
職業ふれあい 稲刈り	9月30日	1	6 (参加者+ボランティア)	岩倉長谷町
職業ふれあい 職業体験	9月4日 ~10月20日	10	10	北センター
自習室	通年(ほぼ毎日)	308	3, 998	北センター
ロビープログラム 何でも質問, 職員企画, 大掃除	通年(月に1~2回)	22	1, 188	北センター
北コミまつり ミーティング, 準備作業, ふりかえりなど	9月1日~1月	32	291 (Vo. +実行委員)	北センターほか
北コミまつり 当日	12月17日	1	2, 497 (来場者+出演者+Vo.)	北センター
BBS中3学習会	通年(毎週木曜日)	48	390 (学習者+ボランティア)	北センター

Vo.=ボランティア

Ⅲ-2. 中京青少年活動センター

全体の動向

事務局と一体的にセンター協同事業の中核となるよう運営した。また若者のニーズを元にプログラムを実施するなど中京独自の事業開発に力を入れた1年だった。施設利用者数は97,421名と前年度比-3,955名となった。アートフリマ同日開催によるプログラムの参加者数減や、青少年グループの利用者減が影響した。

1. 青少年活動センター協同事業(センター固有テーマ)

①ユースシンポジウム2017「あなたと考える、これからのオトナ 大人の条件ってなんですか」

- 12月17日(日)13:00~17:00(下京青少年活動センターにて)開催
- 基調講演・分科会・グループワークの三部構成で実施。参加者116名、青少年ボランティア16名。高校生~60代まで幅広い層の参加があり、大人についてそれぞれの考えを共有しながら深めることができた。

2. 中京青少年活動センター事業(若者のニーズを社会化する事業)

①グループ活動応援キャッチー

- 青少年グループの活動がより発展的になるよう、ロビーにグループ活動の広報に特化したチラシ配架スペースを設置。また交流イベントとして「CONTACT @NAKASEI」と「なかせいオープンデイ」を開催し企画には青少年が参画した。

②アンテナ

- 日々の関わり中で浮かび上がるテーマ、新たな社会課題など、必要とされる取り組みの事業化を意図して昨年度開始した。利用グループへのニーズ調査を経て、青少年が活動資金集めの知識・技法を身に付けられるワークショップ(テーマ:資金集め)を計画した。参加者の満足度は高かったが、7名に留まった。

3. 居場所づくり支援事業

①街中コミュニティ

- コミュニケーションに課題意識のある青少年を対象にグループ交流の場を月に2回提供した。子ども・若者支援室、サポステからのリファーを受け入れ、情報共有しながらそれぞれの目標に向かえる場を構成した。

②赤レンガ café

- 月に1度ロビーにて、地域若者サポーターがコラージュ作成を通してロビー利用者に関わった。居場所機能が強くなり、支援室やサポステからの紹介で継続して参加する若者が多い。

③ロビープログラム

- 多様な目的を持って来館する青少年に対し、利用の幅が広がったり、交流を通じて多様な価値観に触れたりする機会づくりとして、プログラム(掲示型企画10回、イベント13回)や環境整備を行った。ボードゲームをツールとした交流プログラムでは、他センターを利用する青少年の参加もあり、センターを超えた利用者同士の交流が生まれた。

4. 地域交流・連携・参画に関わる事業

①センター周辺地域の団体・機関との連携事業

- 中京区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会、中京区「中京区ふれあい祭り」のほか、新たに日彰安心環境パトロールに対し、参加や事業連携を行った。

②育成委員会及び青少年部会の運営

- 10月13日に総会を開催し、前年度承認された青少年部会の報告や、課題の広報について協議された。
- 青少年部会では、4月に団体交流会を実施したほか、11月にはロビー利用やトレーニングルーム利用者を交えた意見交換会を開き、センター課題抽出を行った。その結果をロビー掲示・投票により他利用者も巻き込み、優先順位をつけて改善を行った。(レイアウト変更、座席数増、クリスマスイベント)

5. 担い手育成に関わる事業

①インターンや社会教育実習・職業体験などの受入れ

○夏期インターン、中学生職場体験、社会教育実習で合わせて計13名を受け入れた。ロビープログラムやイベントの企画を行うことでユースワークについて学びを深める機会となった。

②ユースワーカー養成講習会

○基礎的な養成講習会を年2回開催。さまざまな現場を持つ各地からの参加があり、ユースワークの理解や、現場実践につながる学びを提供することができた。講習会を機に他自治体での講習会実施がひろがった。

6. 利用促進・発信・広報に関わる事業

①自習室・フリータイム事業

○自主活動の練習場所や自習の場として空き室を開放した。フリータイムでは近隣中学生の利用が大幅に増え、他事業にもつながった。

②トレーニングジムガイダンス

○青少年を含むジムアドバイザー・スタッフ7名の協力を得て、器具の安全な使い方を伝える目的でガイダンスを実施した。29年度より新たに女性の青少年スタッフが加入した。

③教室事業（自主事業）

○ヨガ(各10回、年間4クール)では社会人を中心に58名の参加があった。今年度から、京都・きものを楽しむ会の協力を得て、若者を対象とした着付教室を開始、参加者述べ25名。いずれも参加者間・講師とのコミュニケーションを通して高い満足感が得られている。

④学校訪問プロジェクト

○近隣の学校6校を訪問し、センターの紹介や各団体がとらえている若者のニーズに対して、情報提供・事業紹介などを行った。一部ではあるが、訪問を通じて、顔が見える関係を築くことができたほか、センター利用、事業参加へと繋がった。

⑤音楽スタジオ利用促進事業

○利用稼働率を上げる取組みが予定されていたが、実効的な広報活動は行っていない。

7. 相談・支援の取組

①相談事業

○若者個人やグループからの相談が多く見られた。年間の件数としては、青少年・その他あわせて前年度比43件マイナスであり、特に「活動内容」についての減少が目立った。ロビープログラム内で利用者との関係性づくりを強化する等、工夫した。

②就労支援事業

○サポステより紹介された若者1名のチャレンジ体験(就労体験)を2週間中京青少年活動センターで受け入れた。次のステップに繋がるなど、参加者には手ごたえを感じてもらうことができた。

③中3学習会「かけはし」

○運営を学習支援団体Apolonと協力して行い、中京区以外からも学習者を受け入れた。長期休み課題や受験対策として夏と冬に長時間勉強会を開催した。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者／のべ数	実施場所等
ユースシンポジウム	7月～12月	8	(116)	実行委員会含む
グループ活動応援キャッチー	8月～3月	18	(690)	
アンテナ(若者グループのための活動資金集め講座)	10月22日	1	8	
街中コミュニティ	通年／毎月第2・4金曜日	25	16(164)	
赤レンガCafé	毎月第3土曜	10	(161)	
ロビープログラム	通年	33	(1026)	
ユースワーカー養成講習会	9月9日(土), 10日(日) 3月10日(土), 11日(日)	4	66	
育成委員会 青少年部会	4月・11月・3月	3	38	
自習室	通年	274	(1393)	
フリータイム	通年	50	(190)	
トレーニングジムガイダンス	毎月第2日曜・第4土曜	25	486(内青少年333)	
ランチスペース	通年	16	24	
教室事業	ヨガ＝毎週木曜日 着付け教室＝7月, 8月, 10月, 1月, 3月	59	(515)	
チャレンジ体験	5月	10	10	
学習支援事業かけはし	通年／毎週木曜日	72	45(1430)	ボランティア登録 23名述べ833名

Ⅲ-3. 東山青少年活動センター

全体の動向

利用人数は68,899名、前年度比2,768名の増。新たに地域資源と連携した事業に取り組み、新たな事業形態を作ることができた。さらにそこから若者文化発信事業への参画者が得られた。また、サポートステーションとの共催事業では、無業の青少年に対して、ダンスを使ったプログラムを実施し、言葉を使わずに、身体をツールに発信された自己表現や他者表現だけに注目することで、力まずに表現する機会を創出した。

1. 創造表現活動事業(センター固有テーマ)

(1) 創造体験事業

① 演劇ビギナーズユニット(京都舞台芸術協会との共催事業)

○初心者を対象とした演劇の集団創作プログラム。新たな青少年層の演出家、演出補を迎え、中学生～社会人までの参加者が、演劇の創作、修了公演を実施した。不登校の中学生の参加があり、家以外の居場所空間が提供でき、その後別事業への参加につながった。他者との共同作業を通した悩みや葛藤を抱えながらも、参加者それぞれが様々な価値観と出会うことで他者を受け入れる体験や自分が受け入れられる体験、コミュニケーションについて考え・行動する体験、価値観の幅を広げる体験の場となった。

② ダンススタディーズ1

○身体を使った自己表現に興味のある青少年を対象としたコンテンポラリーダンサーのナビゲーターによる集団創作プログラム。中高生～社会人までの参加者が、ワークショップを通して、初めて出会うメンバーとともに作品創作の全般を通して、自己の身体や自己と向き合う体験、自主的に作品のテーマを話し合って決定し、作品創作のリーダーシップをとりながら、様々な合意形成の体験を経て、人と関わる力を高め、集団への意識をもって、最終の作品創りにつなげ、修了公演を実施した。

(2) 余暇活動支援事業

① 東山アートスペース(2コース)

○知的障がいのある青少年を対象に、余暇充実や、活動を通した交流から生まれる成長の機会を目的としたアトリエ活動の場を提供した。運営には、アート系ナビゲーターとボランティアの協力を得て、創作を通して「若者同士が同じ空間を楽しむ活動」として実施した。さらに、協会広報誌での活動発信を行い、事業認知や、理解、活動のPRにつながる機会を設けた。

② からだではなそう(2グループ)

○知的障がいのある青少年を対象に、身体を使った表現を通して、他者との関係の築き方やコミュニケーションを取る楽しさを探れる機会を提供した。運営には、ダンサー・俳優のナビゲーターとボランティアの協力を得て実施した。

○事業発信として、より多くの方に事業の魅力を体験してもらうため、社会福祉協議会での活動発表やオープンデイを開催することで、外部機関に活動を知ってもらう機会を提供することができた。

(3) 若者文化発信事業

① ステージサポートプラン(12グループをサポート/YU'Zは、のべ36グループが利用)

○日頃の活動成果を発表・公演に必要な一定期間、創造活動室を提供し、舞台・照明・音響関係のテクニカルサポートやグループ運営についての相談等の支援を行った。YU'Zでは、公演の決まったグループに練習場所の提供や、公演や活動に関する情報提供、相談等を行った。

○創活番ボランティアの協力を得て、京都市中学校教育研究会演劇部会、京都府高等学校演劇連盟(中部支部)の合同公演サポートを行ったほか、スタッフワーク講習会を開催した。

② 自主活動企画支援事業「夢のスタートライン」(4グループ/5企画をサポート)

○創造表現やものづくりを広めたい青少年の自主的・オープンな活動発表やイベントづくりの機会を提供すると共に運営面での相談や、アドバイス、情報提供等を行った。企画のサポートを通してワーカーとの関係性が深まり、個人の相談へつながるケースがあった。また、複数のジャンルの企画支援ができ、育成団体の活動発信の機会としても認知につながった。

○また、音楽/アトリエ活動サポートプランとして、個展や展覧会など発表/発信機会を控えた創造表現やものづくり活動をする若手アーティストのサポートとして、集中できる創作活動の場を提供にむけた仕組みづくりに着手した。多様なサポートを受けられる青少年施設として若手アーティストの活動拠点となるよう認知の拡

大をねらうこととして、まず創造工作室の広報に取り組んだ。

③☆未来のわたしー劇場の仕事ー(前期・後期年2回 ロームシアター京都との共催事業)

○複数の青少年から受けた相談をもとに、事業を組み立てたことで、仕事を切り口に、プロフェッショナルな人に出会い、直接話を聞いたり、実際の現場体験をする中で、本を読んだりインターネットで情報を得るだけでなく、実体験としての人との出会いの大切さを提供することができた。

④☆「若者文化市」(センター協同事業) 再掲

○初めての取り組みであったが、新規の青少年層の参画が得られたこと、来場者(市民)に対しては、若者のエネルギーを感じてもらえる機会となった。また、ニーズ調査も含め、青少年の今の感覚を知ることができ、運営ボランティアにとっても、次年度に続くきっかけができた。

2. 居場所づくり支援事業

(1) 居場所づくり支援事業

①ロビープログラム「Hus(ヒュース)」

○掲示板コーナーの設置し、年間10のテーマで、青少年が日常的に参加できる空間の提供と、ロビー利用の市民に青少年の想いや考えを伝える場として実施した。寄付で持ち寄った本で図書コーナー「まちライブラリー」では、個別対応を必要とする若者にワーカーがマンツーマンに近い形でかかわる場を設けた。無就労、無就学の青少年が主体的に活動できる場となっている。

②ワタシ+1

○広く市民を対象に、空き施設を活用した教室を実施。多世代交流を図り、市民に対してはセンターの認知・理解向上に努めた。相談・支援機関からのリファーマ対応も行い、課題を抱えた青少年が過ごせる場として機能できた。平日の昼に設定することで、引きこもりがちな青少年の継続的な参加につながる状態を作れ、これまでセンターにつながってこなかった層の若者に居場所を提供できた。

3. 地域交流・連携・参画に関わる事業

(1) 地域交流・地域連携・地域参画事業

①地域(団体/グループ)・NPO 等との連携プログラム(共催事業)

○はぐくみネットワーク、スマイルミュージックフェスティバル実行委員会、要保護児童対策地域協議会、京都華頂大学学園祭等、東山区ふれあいまつりへの参画により、青少年活動センターの認知向上とさらなる連携を深めた。また、東山区選挙管理委員会より選挙の歌を作成するにあたり、利用者を紹介した。

②ワカモノ文化市

○青少年の自主活動の発信、体験を通じて、市民の若者文化への理解を広げる機会を提供した。青少年が部屋の空間を生かした企画を担う参画の方法が見えた。また、居場所事業参加者が自身で作った作品を販売するため手づくり市へ出店したり、障がいのある青少年が工作室やスタジオなどの企画に参加したりするといった、それぞれの興味・関心に広がりをもてる時間の過ごし方が提供できた。

4. 担い手育成に関わる事業

(1) 担い手育成事業

①センター事業における各ボランティアの育成と支援

○からだではなそうで、私立高校のボランティア部が参加。ほかにも高校生の参画が目立った。直接的な参加者との関わりから、活動への理解が深まり、ノーマライゼーションについて感じる・考える機会を提供できた。

②インターンシップ受け入れ

○知的な障がいのある青少年対象の余暇支援事業や創造体験事業のダンススタディーズ1、ロビーでの中高生の居場所事業において、立命館大学院ユースワーカー養成実習や京都女子大学の社会教育実習生を受け入れ、青少年参加者との関わりによる変化や成長について、主体的に理解を深める機会となった。

5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

(1) 利用促進・情報発信・広報事業

①情報発信および広報活動の充実

○新規利用者の獲得や利用促進、PR・アウトリーチ活動としてホームページやSNS、ブログを通して、情報発信や活動報告を行い、ブログに参加申し込みのメールをリンクしたところそこから参加申し込みなどが多い事業も複数あった。東山区内での認知度向上を目指し、利用案内のポスターを3種類新しく作成した。地域連携など外部でのブース出展の際に貼り出すことで、効果的に広報を行えた。利用促進として、創造活動室・レッススタジオをダンスの練習ができる空間「フリータイム」を実施した。

②シェアアトリエ「ヒガシヤマDEものづくり」

○センターの入口事業として週2回のシェアアトリエを開催するほか、若者サポーターと共に運営し、創作活動に興味のある青少年や近隣の専門学校から、授業外の創作活動の場として安定して利用があった。

6. 相談・支援の取組

(1) 相談・情報提供事業

- 事業参加者がグループ体験を通じた人間関係での悩みや葛藤、日常生活での悩みなど、ワーカーとの関係性をもとに相談を受け、自分の力で解決し乗り越えていけるよう情報提供や支援を行った。
- 関係団体からのリファーでは、活動機会の提供と合わせて受け入れ、継続的な支援を行った。

(2) 京都若者サポートステーションとの共催事業

①「働くためのコミュニケーションワーク」

- 無業の状態が続く若者を対象に、コミュニケーションの仕方を学びながら、自分自身を振り返り、気づきが得られる機会の提供を目的として、インプロビゼーション(即興演劇)の手法を用いたワークショップを実施した。「演劇」という言葉に、サポステ利用者が躊躇を示した経験より、タイトルから“演劇から学ぶ”という文言を取った。結果、プログラムの参加に対するハードルが下がり、参加に繋がった。

②「じぶんみがきダンス」

- ダンス創作を体験しながら、自己と向き合う力を高め、自己表現力やコミュニケーション力を培い、就労準備の前段階として、就労意識を高めるきっかけを提供することを目的に実施した。参加者が常にリラックスした状態で、ペアや3人組で表現、または披露・鑑賞をすることで、自己表現、他者表現を体感する機会を提供することができた。

(3) 中3学習支援事業

① 東山中3学習会

- 東山福祉事務所からの要望もあり、地域で学習支援活動等を行っている「子どもの居場所かもかも」に運営協力得て、学習会を開催。ひとり親世帯からつながるケースが多く、東山区の特徴を活かし、ボランティアの協力で安定した運営ができていた。

7. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

- 運営協力会総会に合わせて、「薬物」をテーマに東山警察署生活安全課長を講師にミニセミナーを実施し、「少年非行の現状」をテーマに、現在の青少年を取り巻く状況や身近なところで間接的に起こっている事件を例に、支援に関する理解を深める機会づくりを行った。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者／のべ数	備考／実施場所等
演劇ビギナーズユニット	5月～9月	92	18(2, 857)	自主練習・公演入場者含む
ダンススタディーズ1	11月～3月	49	11(579)	自主練習・公演入場者含む
東山アートスペース	5月～3月	19	32(380)	ボランティア数含む
からだではなそう	6月～3月	25	19(230)	ボランティア数含む
ステージサポートプラン	通年	123	5, 699	ボランティア数含む
ステージサポートプランYU'Z	通年	234	1, 805	
自主活動企画支援 「夢のスタートライン」	通年	9	350	
ロビープログラム	通年	35	346	ボランティア数含む
ロビーギャラリー	通年	306	15, 404	同時期複数開催含む
コミュニティカフェ		7		
ヒガシヤマDEものづくり	通年(週2回)	99	501	
働くまへのコミュニケーションワーク	年2回(5・6月, 1・2月)	9	98	
じぶんみがきダンス	(9・10月)	5	27	
自習室	通年	126	470	
焼成釜一般開放	通年(月1回)	12	85	
ワカモノ文化市	11月18日	1	454	ボランティア数含む
ワタシ+1	4月～3月	49	594	
共催事業	3月	1	272	
中3学習支援	4月～3月	50	640	ボランティア数含む
フリータイム	4月～3月	61	178	
未来のわたし	年2回(5・6月, 9・10月)	26	30(267)	
若者文化市	2月25日	1	1, 208	

Ⅲ-4. 山科青少年活動センター

全体の動向

地域とともに青少年の育ちを支えるために、「食」をテーマとした地域での居場所づくり(子ども食堂の開催)を円滑に進めるためのネットワーク化をはかった。「べる」事業では、地域での利用や活動の機会を広げるため、パートナー獲得に取り組んだ。地域でのボランティア活動の機会も定期的につくり、青少年が地域に出向く機会をつくった。

1. 地域交流・連携・参画に関わる事業(センター固有テーマ)

(1) 地域協働事業

① 地域通貨「べる」(自主)

- 通貨を媒介として、地域で青少年(10代)が活動できる機会づくりを行った(活動総数 55 件)。
- 「べる」パートナー向けの案内を作成して、べるパートナーを獲得した(計4件)。

② 山科子ども食堂ネットワーク

- 子ども食堂運営者、運営協力者、関心のある地域の方と、「まちのちゃぶ台ネットワーク」を結成し、世話人の決定などネットワークが機能するための土台形成を行った。
- 他地域の食堂についての情報提供や発信を行った。また、山科ひまわり食堂に実行委員会として参加した。

③ やませいフェスタ(「ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科」への参画)

- 青少年グループや育成団体による模擬店、活動紹介、スポーツプログラム等を実施した。
- 「ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科」に参加協力し、青少年が当日運営の一部をべる活動で担った。

④ 地域協働事業

- 日本語教室「たちばな倶楽部」「めくるめく紙芝居2017」「ASR(アフタースクール洛東)」「京都 BBS 連盟中央地区会」「子ども学習会(春休み・夏休み)」「山科区母子寡婦福祉会」の活動協力を行った。

(2) 運営協力会との協働事業

① 運営協力会との協働事業

- 青少年との意見交換と懇談会を実施し、会員に青少年の活動や現状を知ってもらう機会となった。また、青少年が作品展示をロビーで行った。その他、運営協力会主催とする事業(少年野球教室)を実施した。

2. 居場所づくり支援事業

(1) Yico(ワイコ)

- 平日の放課後や休日午後に、単発で気軽に参加できるイベント(スポーツ、園芸など)を実施した。
- スポーツルームやテニスコートにおいて青少年が予約なしで利用できる「フリータイム」を設けた。中学1年生のセンター利用の定着化や無目的層の利用促進につながった。
- 日祝日および長期学休期間に、中高生年代がスポーツルームを利用できる時間帯「中高生タイム」を設定し、中高生の活動場所の確保、利用定着を図った。

(2) やませいカフェ

① カフェ「Mountain Blue」(直営カフェ)

- 毎週火曜日の放課後、主に中高生を対象とし、手作りの軽食を提供した。「べる」の利用の機会として定着してきている。

② やませい食堂「テストめし」

- 試験期間中に利用する若者を対象として1~3月に月1回開催し、毎回10名程度の参加があった。
- 「子ども食堂」事業に参加協力している地域の方(「まちのちゃぶ台ネットワーク」(山科区の子ども食堂・学習支援のネットワーク))とともに実施した。

(3) D.I.Y カフェ(だったら、いっしょに、やませいでカフェ)

- 青少年(京都橘大学和洋菓子研究会)によるカフェ企画(クリスマスやバレンタイン等)の企画運営をサポート

した。

(4) 自習室&自習室カフェ

- 空き部屋を確保し、自習室として開放した。
- 利用時にたまるポイントカード方式の「自習室カフェ」を通年で定期的実施し、「テストめし」への参加に繋がった。また、「自習室カフェらいと」を設定し、セルフ式のカフェを気軽に利用することができる仕組みをつくった(木曜日と土曜日、各2時間)。

3. 担い手育成に関わる事業

(1) 担い手養成事業

① やましな未来プロジェクト

- 気軽に参加できるボランティア活動の機会を定期的につくることができた(山科区社会福祉協議会主催の中高生の福祉ボランティア体験、地域の清掃活動等、年間を通じて計6回)。普段センターを利用していない高校生や、サークルの地域交流活動の一環として大学生も参加し、活動後には世代間で交流する機会ももった。

② ボランティア活動促進やインターンシップ・実習生の受け入れ

- 各事業のボランティア募集を行うとともに、ボランティア活動チャレンジ(学生 PLACE+)も受け入れた。
- びわこ成蹊スポーツ大学、京都橘大学、京都女子大学(社会教育実習)・立命館大学大学院(YW 実習)を受け入れた。

4. 利用促進・発信・広報に関わる事業

(1) 利用促進・広報

- 新中学1年生(山科区内全員配布)に向けたセンターリーフレットを作成し、クリアファイル、ニュースレターとともに新中学1年生の入学時期にあわせて配布した。
- 山科区内の中学校・高校に対し、ニュースレター(やませいだより)を定期的送付し、各教室への掲示を依頼した。(年間5回)
- 利用者にインタビューし、広報誌「ユースサービス」の特集記事を作成した。同時に、動画も作成しロビーの様子を発信し広報をすすめた。

5. 相談・支援の取組

(1) 情報提供・相談

- 中高生世代の「学校生活」「恋愛・家族」「恋愛・恋人との関係」「進路・就労」の相談が多かった。昨年度よりも青少年の相談回数が増加した。
- 外部機関との協力連携をしながら、個別対応、サポートを行った。(山科区福祉事務所・子どもはぐくみ室、児童相談所ケースワーカー、京都府民生活部青少年課ユースアシスト、中学校との情報共有等)

(2) 勸修中学校区学びサポートプロジェクト(自主)

- 勸修中学校の協力のもと、山科区社会福祉協議会、NPO 法人山科醍醐こどものひろばと協働し、地域の方(民生委員他)と一緒に学習会を実施した。

(3) 中3学習支援事業

- 対象となる中学生を受け入れ、高校進学や日々の学習支援を大学生ボランティアとすすめた。高校進学後の利用者の参加もあった。

(4) サポステ連携事業アジプロ(あたまとからだを使って働くことを実感するプログラム)

- 京都若者サポートステーション登録者が、少人数のグループワーク・事務作業体験を実施した。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者／のべ数	実施場所等
地域通貨「べる」(自主)	通年	27	(49)	
山科子ども食堂ネットワーク(世話人会)	3/12	1	6	
やませいフェスタ	11/5	1	(1, 512)	
Yico(ワイコ)	通年	101	(983)	
中高生タイム	通年 日祝日および長期学 休期間中	175	(697)	
やませいカフェ	通年			
①カフェ「Mountain Blue」	毎週火曜日	53	(538)	
②やませい食堂「テストめし」	1/27, 2/17, 3/3	3	(48)	
D.I.Yカフェ	5/28, 6/17 12/24, 2/9	4	(88)	
自習室	通年	307	(3, 277)	
自習室カフェ	4/4~3/31	61	(59)	
やましな未来プロジェクト	5/28~2/18	6	(576)	センター近辺地域 安祥寺川 山科中央公園他
勸修中学校区こどもの学びサポートプロジェクト(自主)	6/8~3/15	33	(779)	京都市立勸修中学校
中3学習支援事業	通年 毎週金曜日	115	(428)	
アジプロやましな	10/2~10/24	6	(28)	

Ⅲ-5. 下京青少年活動センター

全体の動向

2015(平成27)年4月に現在地へ移転し、丸3年が経過した。土日は終日、平日も夜間の稼働率は80%を超える利用となり、利用者数が年々増加して94,691人となり、10万人を目指せるところまで来た。高瀬川清掃など地域活動への参加なども行い、市民認知拡大および青少年育成への理解を深めてもらえるように努めた。事業については新規事業「しもせい運動部」にも着手し、「スポーツ・レクリエーション」に特化した事業への強化を目指した。

1. スポーツ・レクリエーション事業(センター固有テーマ)

(1)しもせい運動部

- スポーツに親しみきっかけづくりとして、11月以降、毎月2～3回のペースで、本館3階の下京地域体育館を借用し、青少年グループへ提供した。
- 大学学生課を訪問し、広報に関する相談をしたが、学生に届ける方法まで確立できず。十分な広報活動ができず、なかなか利用には結びつかなかった。

(2)トレーニングルーム事業

①トレーニングルームガイダンス

- 「ジムアドバイザー」による協力体制づくりを行い、トレーニングルームを初めて利用する人を対象に、第1・3木曜日・第5月曜日午後7時半から、ガイダンスを実施。トレーニングルームの利用者の口コミなどにより、参加者が185名と、昨年度よりもさらに増加した。
- トレーニングを通じてできた仲間と、施設の利用やボランティア活動に繋がるきっかけになっている。

②トレーニングルーム利用活性化事業

- 高校生年代を対象に、平日の利用できる時間帯を限定し(朝、昼、夜の3つから選択)、トレーニングルームの利用促進を図った。
- 継続して部活帰りに利用する高校生が口コミで増え、定期的な運動の機会を提供することができた。

2. 居場所づくり支援事業

(1)しもせい道の駅

①しもせいカフェ

- ロビーに集う幅広い若者が、他者との出会いや関わりを通じて、多様な関係性を築く場として、月2回、センターロビーにて哲学カフェを開催し、安心して話せる居場所的空間を提供した。
- 参加者の中には、カフェへの参加がきっかけで、個別相談につながることもあった。

②アンケート企画

- 単純に意見を聞くアンケートだけではなく、握力・反射神経測定やけん玉など、身体を動かし気軽に参加できる企画を実施した。

3. 地域交流・連携・参画に関わる事業

(1)ユースまちづくりスタッフ「チーム街スタ」

- 青少年の社会参加と、地域交流を図ることをねらいとした。地域住民の意見を尊重し、若者目線で企画を提案することを大切にした。
- 地元商店街、企業、学校、近隣住民、地域団体などに対しセンターの取り組みへの理解を深めた。
- 主に七条通沿いにある商店街の方との交流及び、商店街を盛り上げることを目的に「恋ダンス」ビデオ作製や、イベントへの出店協力を行った。2月には「鍋まつり」を行った。

4. 担い手育成に関わる事業

(1)しもせいチャレンジ☆キッズ

- 「青少年ボランティアスタッフと子どもがスポーツ・レクリエーションを通して継続的に関わることで、互いに成長する」ことを目的に、年間6回のプログラムを実施した。
- ミーティングの回数を減らしたことで、ボランティアの負担も軽減され、質を上げることができた。また、下半期からは広報チームと研修チームを構成し、ミーティングになかなか参加できない社会人スタッフの活躍の場、新人スタッフのケアも行った。

(2)しもせいネット(協力・共催事業)

①ボランティア派遣

- ドッジボール大会への審判団派遣:光徳学区少年補導委員会, 下京区少年補導委員会からの依頼を受け, それぞれ青少年ボランティアスタッフを派遣した。センター近隣における活動の幅が広がった。

②運営協力

- 崇仁マガジンの発行:崇仁発信実行委員会が発行するフリーペーパーの発行に際し, 会議の進め方へのアドバイスや, 地元のお店への取材・記事作成などの協力をした。

③センター共催

- 第41期Sリーグ:Sリーグ実行委員会(全72チーム・約1,000名が登録)が主催。市内最大級のバレーボールリーグ戦。青少年を含む市民に対し, 「する」だけでなく「運営する」スポーツの機会を提供した。
- ダンスレッスン「Swish Kid's」:SWISHダンスファクトリーが主催。小中学生を対象にダンスの機会を, 若手のインストラクターには指導の現場を提供した。
- レクリエーション・インストラクター養成講習会:京都府レクリエーション協会が主催。レクリエーションの資格取得に向けた機会を提供した。
- 下京健康ビンゴ:下京区役所が進める「健康長寿のまち・下京」を青少年にも意識してもらうよう, 「下京健康ビンゴ」に参画した。関連の取り組みとして, 骨密度測定コーナーを設置した。

(3)プラン・ドゥ(自主活動促進の事業)

- collection vol. 3:青少年の「こんなことしてみたいけど, 実施に向けての手順や方法が分からない。」「実施する場所がない。」などの不安を, ひとつずつ形にして自信を持てるようにサポートを行った。参加者が多く集まったことで, 主催した高校生の満足度も高く, 次年度への意欲がみられた。

5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

(1)しもせい大学「学びほぐし学部」

- 「コミュニケーション」, 「はたらく」, 「性」をテーマに3クルールの講座を実施した。
- 哲学カフェの手法を用いて, いくつかのルール設定のもと参加者が安心して話せる環境を提供した。他者の考えを受け止め, 自分の価値観を捉え直し, 受け入れようとする参加者の思いが伺えた。

(2)しもせい大学「しもせいフェスタ」

- センター利用者に活動発表の場を提供し, 日ごろの練習の成果を発揮できるステージ発表やボランティア, 育成団体による活動紹介ブースを企画した。
- 昨年よりも多くの団体への声かけ, 下京いきいき市民活動センターの協力も得て, 活動の輪が広がったが, 残念ながら台風の直撃を受け, 中止となった。

6. 相談・支援の取組

(1)あたまと身体でじっかんするプログラムⅡ(アジプロ下京)

京都若者サポートステーションとの調整がつかず, 実施に至らなかった。

(2)相談事業

- 青少年に情報提供を行い, 相談を受け, 個別的な支援を行った。
- ロビープログラムの一環として, 「何でも質問BOX」を設置し, 年間で149件の投稿があった。

(3)学習支援事業

①中3学習支援事業「らくさいスコール」

- 洛西福祉事務所, 京都経済短期大学, 青少年の健全育成を考えるフォーラムと連携し, 洛西地域で毎週1回の学習会を運営した。
- 中退予防の場として, 高校に進学した者も継続して参加し, 学習支援や高校生活の悩みを相談できる場となった。また, 中学生に勉強を教える場面も見受けられた。
- 中学3年生に関して, 登録者全員が高校に進学することができた。

②中3学習支援事業「下京学習会」

- 下京福祉事務所と連携し, 毎週1回学習会を運営し, 高校受験に向け, 学習の習慣づけ, 基礎学力の向上等を目標に, ボランティアスタッフと1対1で学習に取り組んだ。
- 学習を通して, ボランティアスタッフとの関係性を築くことで, 学習者の「居場所機能」にも繋がった。

7. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

(1)青少年支援ネットワーク

- 「下京区行政推進会議」, 「七条中学運営協議会」, 「下京中学運営協議会」, 「下京区はぐくみネットワーク」へ参加し, 各機関との関係づくりを行った。

- 積極的に外部へ足を運ぶ機会を増やし、協力依頼がある都度、青少年育成に結びつくよう理解を求めた。
○会議体でのつながり以外に関係を深める取り組みには着手できなかった。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者のべ数	備考／実施場所等
スポーツ・レクリエーション事業				
トレーニングルームガイダンス	4月～3月	28	185	アドバイザー72名を除く
トレーニングルーム利用活性化事業	4月～3月	123	261(13)	①体力増強コース:毎週月曜・木曜 ②筋力中心コース:毎週火曜・金曜
居場所づくり支援事業				
しもせい道の駅／アンケート企画	①7月 ②9月 ③10月 ④11月 ⑤12月 ⑥1月 ⑦2月 ⑧3月	31 30 31 30 31 31 28 31	187 71 71 54 63 140 99 55	①「あなたの願いは？」 ②「おすすめグルメはなに？」 ③「握力・反射神経No.1決定戦」 ④「あなたにとっての今年の漢字」 ⑤「今年ハマったものを教えて！」 ⑥「受験に向けたメッセージ」 ⑦「あなたの恋愛観教えて！」 ⑧「けん玉コンテスト」
しもせい道の駅／しもせいカフェ	4月～3月	20	65	毎月1・3木曜日、ロビーにて
しもせい道の駅／望年会	12/26		10	多目的ホール
地域交流・連携・参画に関わる事業				
ユース街づくりスタッフ ミーティング	4月～3月	78	321(11)	
ユース街づくりスタッフ イベント参加	4/23 5/14 7/15 8/26 2/17		Vo.6 Vo.3 Vo.9(68) Vo.3(48) Vo.13(263)	松尾大社「神幸祭」 松尾大社「還幸祭」 七条商店街「サマーナイトフェスティバル」 「下京・京都駅前サマーフェスタ」 「鍋まつり」
担い手育成に関わる事業				
しもせいチャレンジ☆キッズ	4月～3月	73	Vo.26(683)	登録ボランティア25名・参加者34名
しもせいネット／ボランティア派遣	①6/18 ②11/12 ③11/26		Vo.7(237) (205) (440)	①光徳学区町対抗ドッジボール大会 ②下京区ふれ愛まつり ③小学校対抗ドッジボール大会
しもせいネット／運営協力	①2/26		Vo.4(354)	①下京つながりフェスタ
しもせいネット／Swish Kid's(共催)	4月～3月	42	(112)	SWISHダンスファクトリー主催
しもせいネット／Sリーグ(共催)	4月～3月	26	(6, 368)	Sリーグ運営委員会主催 試合会場:府立体育館・伏見港体育館
しもせいネット／レクリエーション・インストラクター養成講習会(共催)	6月～10月	5	(92)	京都府レクリエーション協会主催
利用促進・情報発信				
しもせい大学／学びほぐし学部	4月～3月	7	(34)	
自習室	通年	316	(2, 871)	
相談・支援				
ロビーでの情報提供	4月～3月		(143)	「何でも質問BOX」
中3学習支援事業「らくさいスコーレ」	4月～3月		ボラ12(656)	登録ボランティア12名・学習者24名
中3学習支援事業「下京学習会」	4月～3月		ボラ6(223)	登録ボランティア6名・学習者3名

Vo.=ボランティア

Ⅲ-6. 南青少年活動センター

全体の動向

近隣の中学生、高校生が思い思いの時間を過ごせる場づくりのほか、誰もが気軽に参加できるプログラムの実施を行った。ロビーで活動する「ロビー喫茶ボランティア」「たまり場 project ボランティア」は、同世代の若者が、ナナメの関係を大切しながらセンターで過ごす人たちをつなぐ役割を担うなど人と人のつながりを大切にしたい1年であった。

1. 居場所づくり支援事業 ～たまってつながる居場所づくり～(センター固有テーマ)

(1) 居場所づくり事業

① たまり場project

○センターのロビーにて若者の希望を取り入れた、ミニプログラムや3名の学生ボランティアによるロビーワークを展開し、若者たちがたまるだけでなく、他者とのつながりを感じられる場づくりを行った。

② ロビー喫茶

○週2回夕方、ロビーで喫茶をオープンした。運営は大学生を中心としたボランティアが担い、50円程度の軽食を提供。空腹を満たすだけでなく、喫茶カウンター越しに若者たちの交流する機会を提供できた。

○「いっしょにきっさ」をテーマに実際に利用者とスタッフが共に調理をする機会をもった。

③ フリータイム

○毎日、16～18時を予約不要のフリータイムとしてスポーツルームを開放した。ダンス、卓球を中心に中学生、高校生の利用が多くあった。ワーカー、ボランティアが関わり、利用者間の交流を促した。

④ 自習室

○利用のない部屋を自習室として開放した。受験を控える中高生や資格取得を目指す社会人の利用が目立った。受付で積極的に話しかけることを通して、相談につながることやロビーで過ごす利用者も増加した。

(2) 若者の孤立を防ぐ事業

① 20代話せるプログラム「なカマめし」

○20代の若者を対象にした夕食を食べる企画を月1回実施した。継続的な参加者の満足度は比較的高かったが、新規の参加者は少なく、定員を満たすことも難しかった。

② ピアサポート企画

○子育てを行う若者を対象にした「ママ oide カフェ」を地域の子育てサークルの協力を得て取り組んだが、対象となる層の参加は少なく、課題を残すところとなった。

○中3学習会の同窓会を実施した。当日の参加は少なかったが、卒業生の近況を聞ききっかけとなった。

③ スモールステップ

○他機関からリファーされた2名の若者の登録があったが、本人がどの程度場を必要としているか、確認することはできず、継続的に関わることはできなかった。

④ グループ活動体験事業

○月2回、ひきこもり経験をもつ20代の女性を対象にした「ひだまり部」では、園芸活動や調理、おしゃべりなどをして過ごした。新たな参加はなかったものの、参加者にとっては安心して過ごせる場になっていた。

(3) グループを活用してチャレンジする事業

① 清掃活動ボランティア「ひろいな」

○月1回の清掃活動には、大学生を中心に高校生、社会人も加わって活動を行った。

○鴨川清掃、他センターとの合同清掃などは、参加者が中心となり企画を練り、運営を行うことができた。

(4) 若者が自分の力を活かす事業

① ボランティア体験事業「ふらっと」

○気軽に参加できるボランティアの機会として、1回参加型プログラムを実施。近隣児童館の夏まつりやふれあいまつりなどで活動を行った。

② 青少年共催事業「grow up with みなみ」

○「MINAMI X」では、ロビーギャラリーやテニス教室など利用者の持ち込み企画を行った。

○「オープンカフェ byユース」では、育成団体による喫茶運営が行われた。料理室を利用するグループへの声掛けを行ったが、経費の面での負担が大きいとの理由で実現しなかった。

③えむえむフェスタ

- センターを練習場所に利用しているダンス、ジャグリング、バンドなどのグループが練習の成果を披露するステージ企画、ユスカルチャレンジの一環でボードゲーム大会などをフリーマーケットと同時開催した。
- 事前準備、当時運営は、高校生、大学生のボランティアが中心となって行った。

2. 地域交流・連携・参画に関わる事業

①地域交流事業

- 南区ふれあいまつり、洛陽・塔南、両児童館の夏祭り、地域一斉清掃などの取り組みに若者と参加した。

②地域連携事業

- 南区行政推進委員会、はぐくみネットワーク、こころの健康を考える会など行政や地域団体の定例会議に出席し、南区の子ども若者の諸課題について、情報の交換や提案を行った。

③南区ワカモノネットワーク

- 地域で活動するひとを講師に招き、南区の地域プロフィールを知る勉強会として南区の成り立ちや課題を学ぶ機会をもった。
- 龍谷、大谷、立命館、佛教、滋賀県立などの大学に出向きゲストスピーカーとして、センターの実践を伝える機会をもった。

④南青少年活動センター育成委員会

- 総会を開催し、センター運営、事業実施について議論をいただいた。
- 年3回、育成委員向けに事業チラシやフォトレターの送付を行った。

3. 担い手を育成する事業

①ボランティア育成事業

- 中3学習会、ロビー喫茶など事業を担うパートナーの募集、育成を行った。

②インターンシップ・実習生の受け入れ

- 立命館大学／大学院、京都女子大学の実習、インターンシップ生を年間通して、7名の受け入れを行った。

4. 利用促進につながる広報の実施

①ウェブ媒体を活用した広報を活用した広報

- ホームページの他、ブログ、Twitter、Facebook などそれぞれの特徴を活かし、情報を届けたい対象ごとに情報を届ける取り組みを行った。

②ニュースレター等の広報物発行

- センターの取り組みを伝えるフォトレターは、塔南学区の内の回覧板、季節ごとに発行した「南だより」は、南区の中学校、高校(久世地域除く)の全生徒配布を行うことができた。

③フリーマーケット(自主事業)

- 地域の人たちにセンターに足を運んでもらうきっかけに、フリーマーケットを3回開催したが、出店希望者、当日来場者とも例年を下回った。また、若者の参加を十分に促すことはできなかった。

5. 相談・支援の取組

(1) 若者の課題の軽減に取り組む事業

①学習支援事業「中3学習会」

- グループ学習に取り組み、仲間と共に学びあう空間づくりを意識して運営を行った。
- ボランティアの参加が不安定であり、ボランティアの参加をいかに促すことができるかが今後の課題となった。

②ユースinfo

- センター横断事業の一環として、恋愛カフェを実施した。例年実施している「障がいのある若者に関わる支援者のための性教育講座」は、実施を見送った。

③相談事業

- ロビーや自習室利用の若者に対して相談活動を行い、進路や家族、友人関係などの話に耳を傾けた。

④就労体験事業「アジプロ」

- ロビー喫茶を利用して、調理から接客まで行う喫茶運営体験を実施した。仲間と協力して場をつくりあげることや失敗しても大丈夫ということを参加者に実感してもらう場を提供できた。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者／のべ数	実施場所等
たまり場project	通年・随時	122	延べ575	ロビー
ロビー喫茶	原則毎週月・木曜日	108	延べ987	ロビー
自習室	通年・ほぼ毎日	316	延べ1,104	和室 他
フリータイム	通年・ほぼ毎日	321	延べ3,849	スポーツルーム
20代話せるプログラム「なカマめし」	6/9, 7/14, 8/18, 10/13, 11/10, 12/8, 2/9, 3/9	8	延べ33	料理室, 和室
ぴあサポート企画「ママoideカフェ」	7/11, 9/12	2	延べ19	ロビー
ぴあサポート企画「中3学習会同窓会」	7/22	1	10/延べ10	スポーツルーム
スモールステップ	4/8, 4/15, 4/30, 5/11, 6/10, 7/23, 8/10	7	2/延べ7	南青少年活動センター
グループ活動体験事業	毎月第1, 3土曜日 7/29, 12/2	27	6/延べ76	センター周辺, 他
清掃活動ボランティア「ひろいな」	毎月第4土曜日 他	13	11/延べ62	センター周辺, 他
就労体験事業「アジプロ」	(7/17~8/17, 11/21~12/19, 2/13~3/20)	3 クール	11/延べ314	ロビー, 料理室 他
ボランティア体験事業「ふらっとb」	7/2, 7/30, 8/26, 9/30, 10/15, 11/12, 3/18	7	32/延べ35	関係機関等
Grow up with みなみ「MINAMI×」	6/5~6/19, 12/23	16	延べ79	テニスコート 他
Grow up with みなみ「みんなの喫茶」	8/4, 8/23, 12/19	3	延べ98	ロビー
M×Mフェスタ	3/18	1	延べ380(3月フリーマーケットの参加者含)	ロビー 他
中3学習支援	毎週木曜日	54	28(登録者17)/延べ376	大会議室
南区ワカモノネットワーク	5/22, 5/26, 5/30, 6/12, 6/28, 10/20, 3/31(他, 年3回不定期に実施)	10		大学, 関係機関等
南区ワカモノネットワーク「地域プロフィールを知る会」	1/23	1	2/延べ2(講師除く)	大会議室
ボランティア育成事業	通年・随時	50	延べ71	ロビー
実習生・インターン受け入れ	通年(希望に応じて)	75	7/延べ61	南青少年活動センター
退所者支援交流事業「いこいな」	11/18, 12/16, 1/20, 2/17, 3/17	5	13/延べ21(対象者のみ)	料理室, 和室
フリーマーケットinみなみ(自主)	7/2, 10/14, 3/18	3	延べ703(3月人数はM×Mフェスタで計上)	南青少年活動センター

Ⅲ-7. 伏見青少年活動センター

全体の動向

多文化共生事業を中心に事業の見直しが進んでおり、新たな取り組みと既存の事業が入り混じる過渡期であると言える。そのため、スタートアップの準備や見直しのため、事業参加者数は減少(-2, 890名)している。施設利用に関しては、一般利用者は減少(-1, 492名)しているが、青少年のロビー利用が増加(+4, 161名)し、利用者全体では1, 284名増加している。結果、センター全体では減少(-1, 606名)しているが、事業が軌道に乗り出す来年度以降、数的には回復可能と考える。今後さらに事業を精査し、ロビーワーク等、如何に質的な向上を図ることが出来るか、次年は問われている。

1. 多文化共生事業(センター固有テーマ)

①JTL(Japanese Talking Lesson)

○外国にルーツを持つ方と日本人が気軽に多文化にふれあえる場として、日本語での日常会話の練習をツールとした交流会「Japanese Talking Lesson」を毎週火曜日に開催した。フリートークを通じて、参加者、青少年ボランティアの国際理解につながっている。

②にほんご教室

○外国にルーツを持つ日本語を母語としない市民への学習支援活動を行なった。交流会を3回実施し、教室とは違った交流ができ参加者のルーツなどにも刺激された。青少年がリーダーとなり、教室運営に取り組んでおり、学習者のニーズに合わせ、マンツーマンと小グループ指導などの対応ができています。ミニ研修会、研修会を開催し、スキル向上もおこなった。北青少年活動センターでの教室を9月から開催した。

③インターナショナルイベントクラブ

○日本人、及び外国にルーツを持つ青少年が一緒になって、月に1回ミーティングを重ねながら、伏見の名所を訪れたり、センター内で季節の行事イベントを月に1回のペースで企画・実施。参加者はもちろん、事前の会議等を通して、青少年の国際理解、多文化共生社会を担う人材の育成につながっている。

④多文化共生きほんのき

○カンボジア・スタディ・ツアー2017報告会、及びセンター利用者で青年海外協力隊隊員の青少年による報告会を実施した。また、カンボジア・スタディ・ツアー2017をまとめた報告書を発行した。青少年が自らの意見を社会に発信する機会となっている。

⑤他団体連携

○渡日・帰国青少年のための京都連絡会(ときめき)、京都にほんご Rings、多文化支援ネットワーク等、多文化共生に関連した委員会、有識者会議へ参画した。固有テーマに関してネットワークを構築できている。

⑥カンボジア・スタディ・ツアー2017(自主事業)

○NPO 法人テラ・ルネッサンスと協働して、青少年、特に教員や教員を目指す大学生を対象に「カンボジア・スタディ・ツアー2017」を実施した。8名の方が参加。ツアー当日だけでなく、前後には事前勉強会、報告会(振り返り)を行い、参加者の学びや気づきを深めた。

2. 居場所づくり支援事業

①ロビーアクション

○月に1回、スポーツルームAでごちゃまぜスポーツを実施した。
○ボランティア活動に関する掲示や、カンボジア・スタディ・ツアーと連動したカンボジア写真展、実習生による軽食提供プログラムを実施。普段施設を利用する青少年にとって有益だと思われる情報の提供やワーカーとの関係構築のためのきっかけづくりを行った。

②パパ&ママのための居場所プログラム

○「親子で英語musicを楽しもう」を実施、通年開催のため継続参加する中で参加者同士の仲が深まり、子育てについて情報交換が活発になされていた。
○「はのんの会」との共催で乳幼児をもつ親支援のワークショップを開催し、ボランティア申込者が多く、ボランティア活動の入り口としての機能を果たした。

③向島子ども・若者のための拠点づくりプロジェクト

○伏見区社会福祉協議会、京都文教大学、地域住民・団体と連携し、向島ニュータウン内にあるコミュニティ・スペース「マイタウン向島(愛称 MJ)」にて、毎月第2火曜日に、高校生年代から30歳までの青少年を対象とした、居場所プログラム「向島ユースセンター」を運営。向島在住の青少年や地域の方との関係性も生まれてきている。運営に並行して、持続可能性について、地域の方と意見交換を重ねている。

3. 地域交流・連携・参画に関わる事業

①つながり cafe

- 青少年、一般市民の持込み企画によるイベント、及びコミュニティカフェを展開。イベントの主催や参加、飲食出店を通して、青少年のチャレンジする場として機能しただけでなく、青少年と市民がふれあう機会となった。
- 多目的交流スペースでのギャラリー展示「つな画廊」を実施。一般市民、青少年の成果発表の場となっている。
- 2ヶ月に1回「手づくり市」(全6回)を開催。センターの認知につながっている。

4. 担い手育成に関わる事業

①ボランティア・ラーニング

- センターのボランティア活動を紹介するボランティア説明会を実施。

②ワンアッパ(ユースサポートプロジェクト)

- ダブルダッチ教室(MIYAKO JUMP ROPE CLUB)、にほんご学習会(アジア学生就労支援センター)のサポートをおこなった。

5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

①ふしみんメディアパブスタジオ

- 青少年の施設利用風景をSNS等で発信した。情報発信について実践できる場としてだけでなく、青少年との関係性を築く機会としても機能している。
- 御香宮神幸祭にて情報発信を実施。青少年3名の参加があり、青少年と地域がつながるきっかけとして機能した。

②ふしみんインフォメーションノート

- 青少年ボランティアそれぞれが自分の得意分野(記事取材作成、デザイン、編集等)を活かしながら、地域に目を向け、年3回のフリーペーパーを発行した。

③フリータイム・自習室の設置

- 平日15時～18時にスポーツルームAを、火・木・土・日・祝日15時～18時に中会議室ABをダンスができるフリータイムとして開放した。
- 専用自習室の他に複数人で教え合いながら勉強できるグループ自習室を一昨年からは実施している。また、今年度よりロビーでの実習を可能とした。

6. 相談・支援の取組

①相談・情報提供事業

- 相談 129 件 139 回と、前年度比較 13 件 18 回プラスとなった。うち青少年の相談件数は 101 件 105 回。

②サポートステーション職業ふれあい事業

- 演劇創作を取り入れたプログラムを実施。創作を通じてコミュニケーションの楽しさを感じることで、就労の怖さを軽減し、就労意欲を高めるための準備として有効であった。

③中3学習支援事業

- 対象世帯の青少年に毎週木曜日(長期休み期間は毎週2回)学習支援活動(愛称:STEP)を実施。中学校3年生の登録者8名中5名が高校へ進学した。3名は登録後、継続的な学習会参加につながっていない。
- 今年度10月より、向島ニュータウン藤の木エリアにある城南保育園にて学習会(愛称:向島ぷらす)を開設。毎週土曜日に実施している。中学校3年生の登録者2名中1名が高校へ進学、残り1名は、連絡がとれないため不明である。
- 伏見区担当課、及びケースワーカーを対象に活動内容についての研修会と意見交換を実施した。

7. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

①非行防止対策・軽減に向けた事業

- 少年非行の軽減に向けた取り組みとして、育成団体と連携したストレス発散型の柔道教室を開催した。少年非行の直接的な軽減にはならないが、間接的な非行防止につながる、等の意見を警察関係者から頂戴している。

<行事一覧>

事業名		実施期間	回数	参加者／のべ数	実施場所等
□多文化共生事業					
JTL (Japanese Talking Lesson)		通年	41	63(382)	内, ボランティア延べ153名, 登録12名
にほんご教室	伏見 土曜クラス	通年	42	76(856)	内, ボランティア延べ465名, 登録42名
	北 木曜クラス	9月～	23	9(110)	内, ボランティア延べ53名, 登録4名
インターナショナルイベントクラブ		10月～	11	77(94)	内, ボランティア延べ22名, 登録5名
多文化共生きほんのき		12, 3月	2	31(31)	
他団体連携		通年	0	0	
カンボジア・スタディ・ツアー2017		8月	1	7(7)	
□居場所づくり支援事業					
ロビーアクション		通年	13	211(211)	
パパ&ママのための居場所プログラム	親子で英語ミュージック	通年	43	11(834)	
	ノーバディーズパーフェクト	7～9月	11	27(257)	内, ボランティア延べ70名, 登録20名
向島子ども・若者のための拠点づくりプロジェクト		5月～	11	15(55)	内, ボランティア延べ12名, 登録2名
□地域交流・連携・参画に関わる事業					
つながりcafe	カフェ・イベント企画・縁庭	通年	131	(953)	
	手づくり市	隔月	7	(562)	
	つな画廊	通年	43	(1, 442)	
□担い手育成に関わる事業					
ボランティア・ラーニング		6月	1	3(3)	
ワンアップ(ユースサポートプロジェクト)		通年	44	8(382)	
□利用促進・発信・広報に関わる事業					
ふしみんなメディアパブスタジオ	動画配信	通年	5	5(5)	
	伏見の祭りプロジェクト	10月	1	8(8)	内, ボランティア登録3名
ふしみんなインフォメーションノート		通年	3	3(3)	内, ボランティア登録2名
フリータイム自習室の設置	フリータイム	通年	343	(4, 270)	
	自習室	通年	492	(5, 886)	
□相談・支援事業					
相談・情報提供事業		通年	140	130(140)	内, 相談98件, 情報提供32件
サポートステーション職業ふれあい事業		10, 11月	6	11(55)	
中3学習支援事業	STEP	通年	68	26(623)	内, ボランティア延べ287名, 登録11名 学習者登録15名
	向島ぶらす	11月～	14	7(39)	内ボランティア延べ18名, 登録4名 学習者登録3名
□少年非行の防止・軽減に向けた取り組み 非行防止対策・軽減に向けた事業		8月	1	(13)	

IV. 収益事業等

京都市内を中心として活動する市民団体や地域団体、企業等に青少年活動センターを利用いただいた。

年間一般利用者数 53,759人